

射添地区まちづくりアンケート 調査結果報告書

令和元年 9 月

射添地区新しい地域コミュニティ
設立準備委員会

目次

第1章 アンケート調査の概要.....	1
I 調査の目的.....	1
II 調査概要	1
III 調査結果の見方	1
第2章 アンケート調査の結果.....	2
I 回答者の属性	2
II 各設問の回答	6
III 自由回答	43
IV 各設問の「その他」の回答	60
資料 アンケート調査票.....	62

第1章 アンケート調査の概要

I 調査の目的

このアンケートは、新しい地域コミュニティづくりを推進している香美町射添地区の住民が抱える、将来に対する不安・悩みや地域の将来像等の実態を把握し、多様な住民が参画しながら地域課題に対応していく、射添地区における独自の地域運営の仕組みの検討を行うための基礎資料とするため、実施しました。

II 調査概要

〈調査地域〉 香美町射添地区

〈調査対象者〉 射添地区に居住する中学生以上のすべての住民

〈調査票配布状況〉 配布数：1,273 件

区長による各戸訪問による配布・回収

〈調査票回収状況〉 回収数：869 件（回収率 68.3%）

有効回収数：867 件（有効回収率 68.1%）

III 調査結果の見方

- グラフ及び表のN数（number of case）は、有効標本数（集計対象者総数）を表しています。
- 回答結果は、有効標本数に対して、それぞれの回答の占める割合を示しています。小数第2位を四捨五入しているため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。
- 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合も、有効標本数に対して、それぞれの回答の占める割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- 図表中において、「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- 本文中の設問や選択肢の表記は簡略化している場合があります。

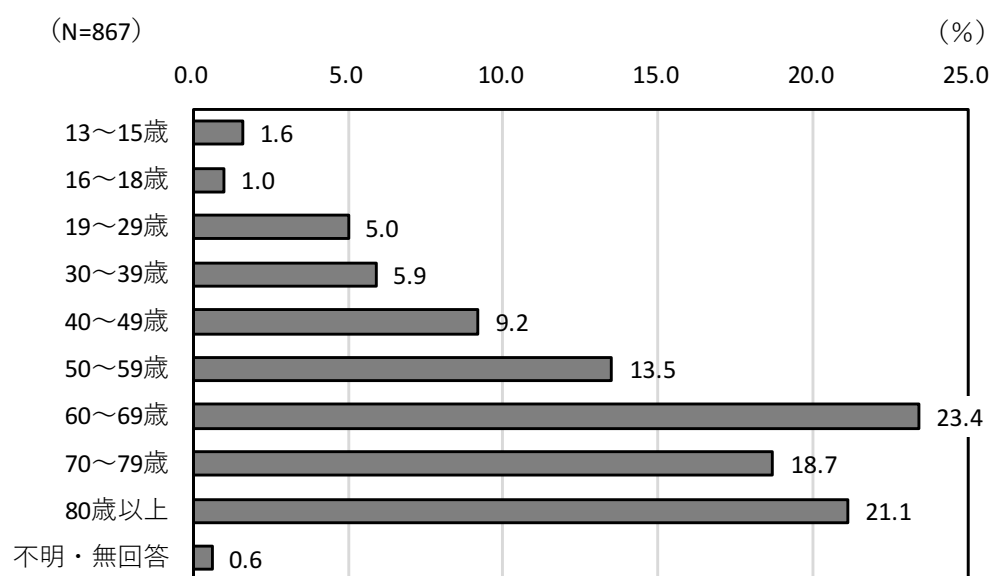
第2章 アンケート調査の結果

I 回答者の属性

■問1 年齢と性別。(1つに○)

<年齢>

「60～69歳」が23.4%と最も多く、次いで「80歳以上」が21.1%、「70～79歳」が18.7%となっています。60歳以上の人口は、63.2%となっています。

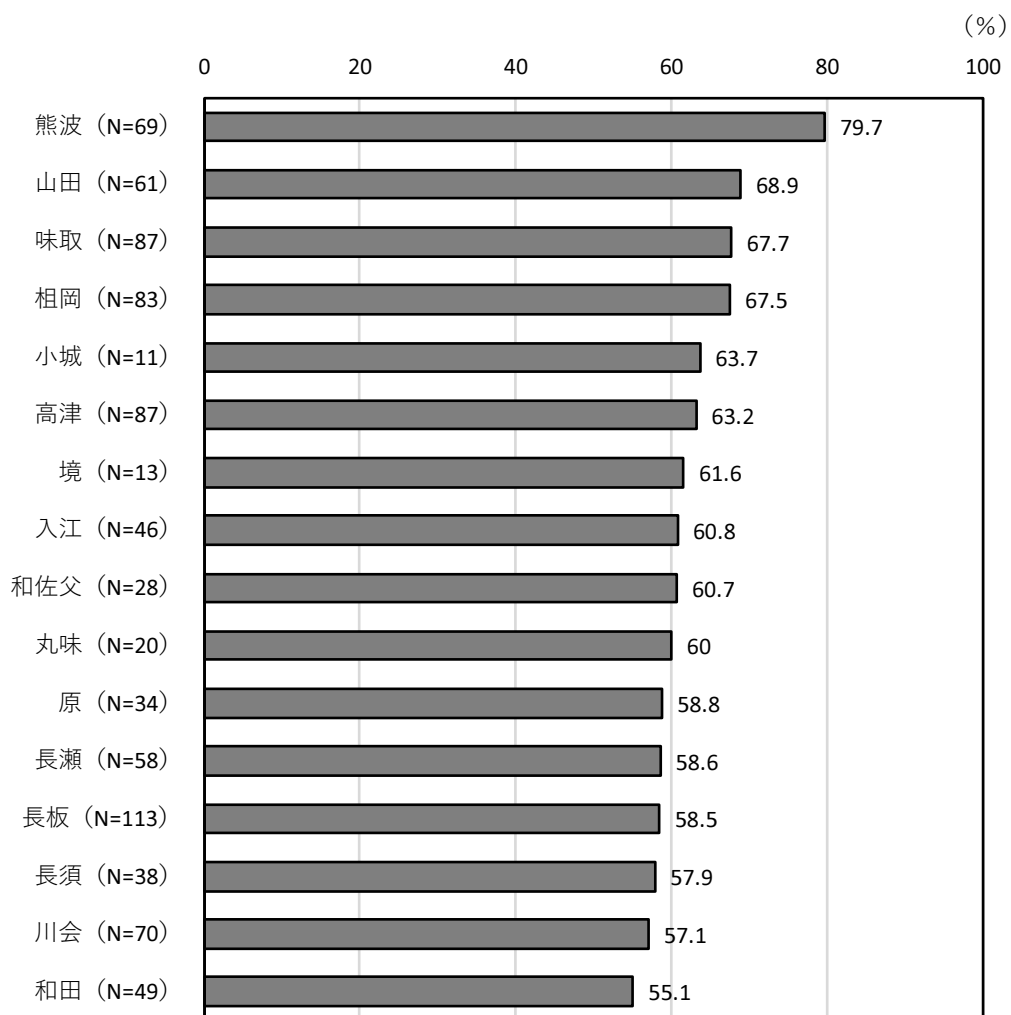


<60 歳以上の人口割合／集落別>

集落別に、60 歳以上人口の割合が多い順に並べると、「熊波」が 79.7%と最も多く、次いで「山田」が 68.9%、「味取」が 67.7%となっています。

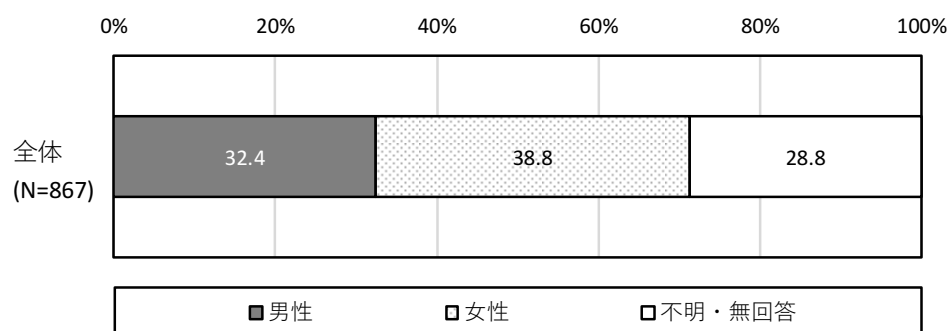
最も少なかったのは「和田」の 55.1%でした。

（このアンケートの回答者に関する分析であり、各集落の 60 歳以上人口の割合を示したものではありません。）



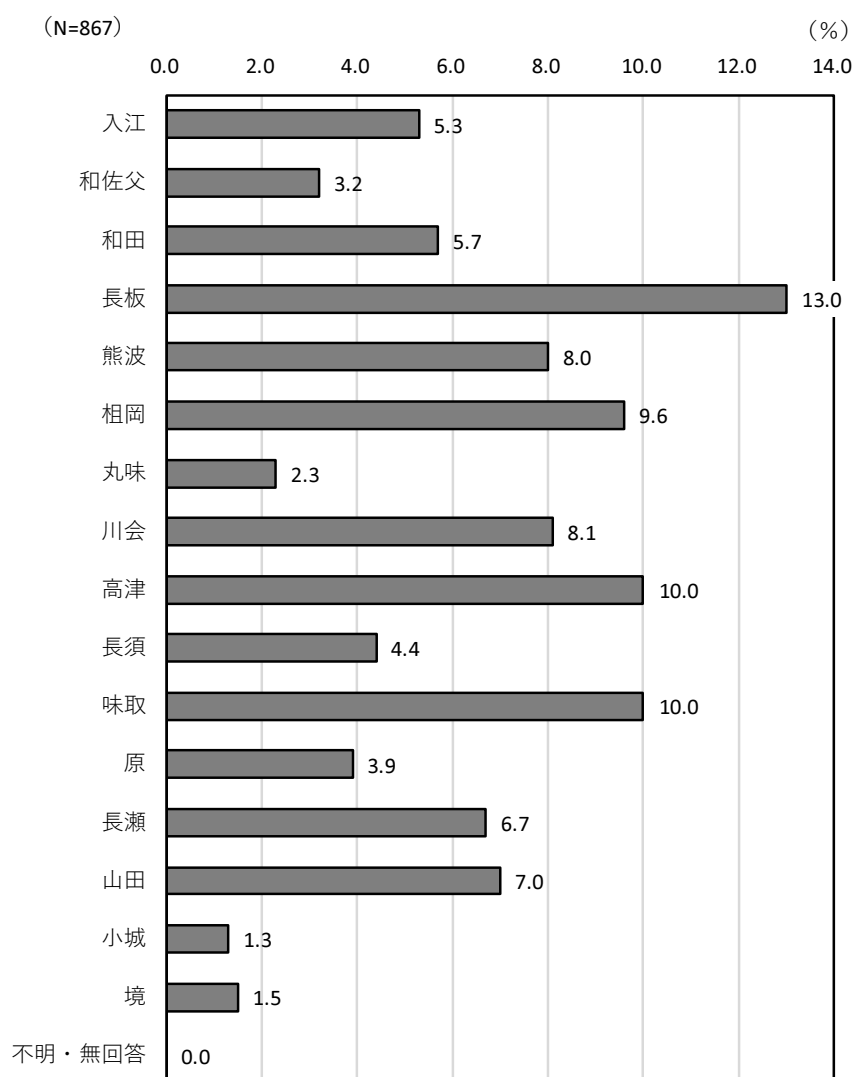
<性別>

「女性」が38.8%、「男性」が32.4%となっています。



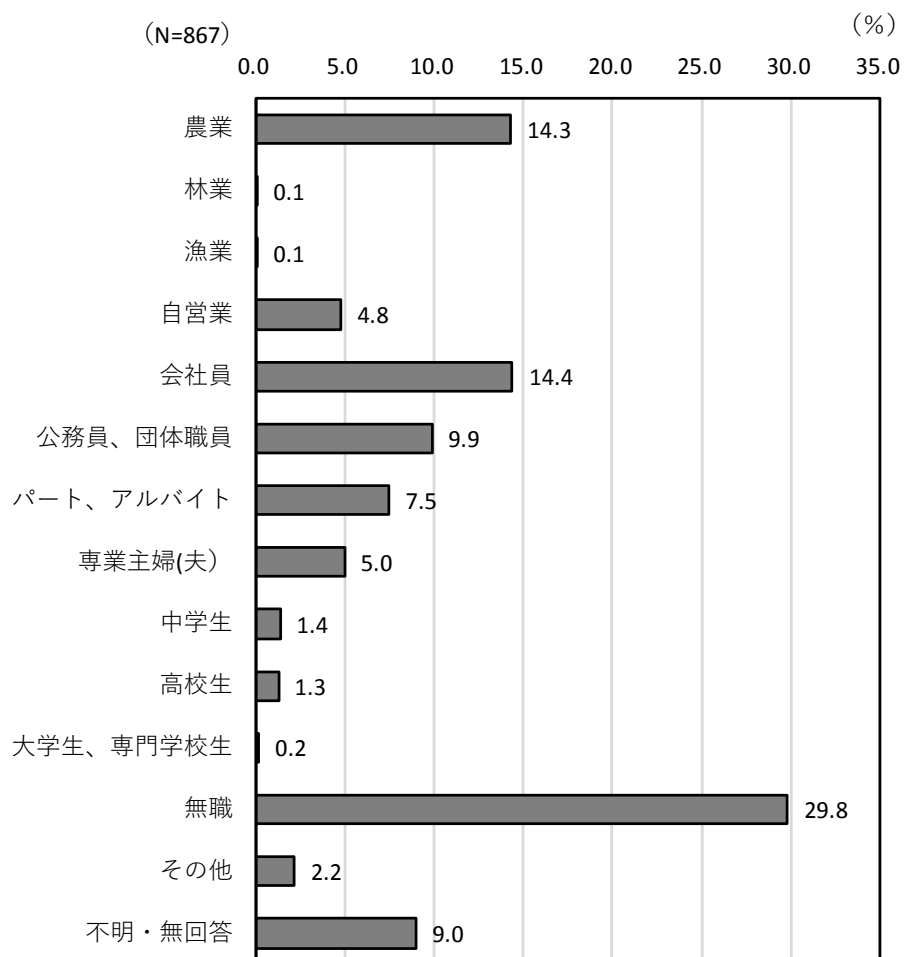
■問2 住いの集落。(記述式)

「長板」が13.0%と最も多く、次いで「高津」と「味取」がともに10.0%となっています。



■問3 職業。(あてはまるものすべてに○)

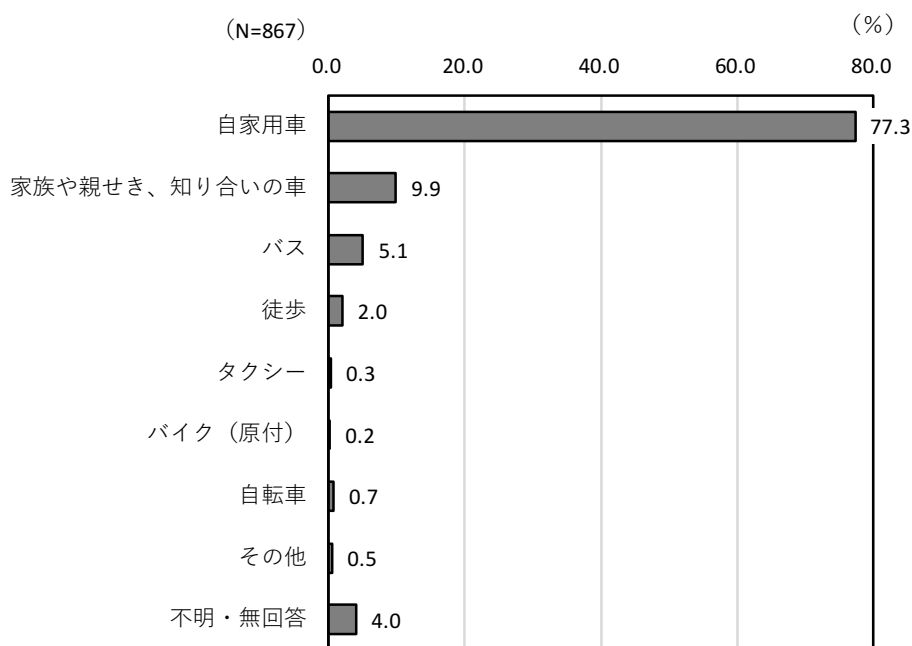
「無職」が29.8%と最も多く、次いで「会社員」が14.4%、「農業」が14.3%となっています。「無職」が多いのは、高齢者が多いためと考えられます。



Ⅱ 各設問の回答

■問4 日常の主な交通手段は何ですか。(1つに○)

「自家用車」が77.3%と最も多く、次いで「家族や親せき、知り合いの車」が9.9%、「バス」が5.1%となっています。高齢化の進行を考えると、交通安全対策や移送手段の確保が課題であると考えられます。



【年齢別クロス集計】

19歳以上では「自家用車」が最も多くなっています。13～15歳では「バス」が、16～18歳では「家族や親せき、知り合いの車」が、それぞれ最も多くなっています。

	自家用車	家族や親せき、知り合いの車	バス	徒歩	タクシー	バイク (原付)	自転車	その他	不明・無回答
13～15歳 (N=14)	7.1	28.6	42.9	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3
16～18歳 (N=9)	11.1	33.3	11.1	0.0	0.0	0.0	22.2	0.0	22.2
19～29歳 (N=43)	88.4	4.7	0.0	4.7	0.0	0.0	0.0	0.0	2.3
30～39歳 (N=51)	94.1	2.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0
40～49歳 (N=80)	97.5	2.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
50～59歳 (N=117)	94.9	0.9	0.0	0.0	0.9	0.0	1.7	0.9	0.9
60～69歳 (N=203)	90.6	3.4	2.0	0.0	0.5	0.5	0.0	0.0	3.0
70～79歳 (N=162)	78.4	6.2	8.0	1.9	0.0	0.6	0.6	0.0	4.3
80歳以上 (N=183)	42.1	30.6	10.9	5.5	0.5	0.0	0.5	1.1	8.7

表の濃く塗りつぶした枠は、最も回答が多かったもの。
薄く塗りつぶした枠は、2番目に回答が多かったもの。

【集落別クロス集計】

いずれの集落も「自家用車」が最も多くなっています。次いで「家族や親せき、知り合いの車」や「バス」が多くなっています。

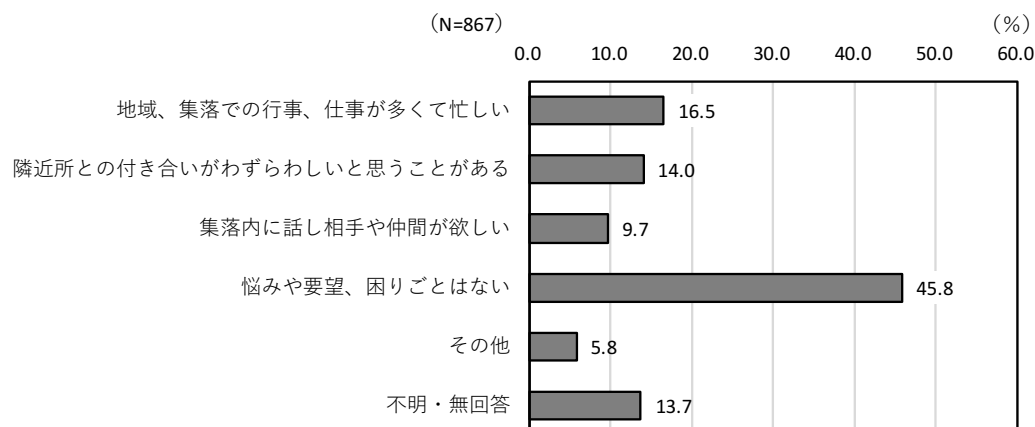
(%)

	自家用車	家族や親せき、知り合いの車	バス	徒歩	タクシー	バイク (原付)	自転車	その他	不明・無回答
入江 (N=46)	71.7	15.2	2.2	4.3	0.0	0.0	0.0	2.2	4.3
和佐父 (N=28)	71.4	7.1	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3
和田 (N=49)	77.6	8.2	4.1	6.1	0.0	0.0	0.0	0.0	4.1
長板 (N=113)	80.5	8.8	3.5	2.7	0.0	0.0	0.9	0.9	2.7
熊波 (N=69)	72.5	21.7	1.4	0.0	0.0	0.0	1.4	0.0	2.9
相岡 (N=83)	73.5	4.8	15.7	2.4	0.0	1.2	0.0	0.0	2.4
丸味 (N=20)	65.0	20.0	5.0	5.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.0
川会 (N=70)	82.9	8.6	2.9	0.0	0.0	0.0	1.4	1.4	2.9
高津 (N=87)	80.5	9.2	0.0	3.4	3.4	0.0	0.0	0.0	3.4
長須 (N=38)	78.9	7.9	7.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.3
味取 (N=87)	78.2	9.2	2.3	2.3	0.0	0.0	1.1	1.1	5.7
原 (N=34)	76.5	0.0	11.8	0.0	0.0	2.9	5.9	0.0	2.9
長瀬 (N=58)	74.1	12.1	12.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.7
山田 (N=61)	75.4	13.1	3.3	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	6.6
小城 (N=11)	90.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1
境 (N=13)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

表の濃く塗りつぶした枠は、最も回答が多かったもの。
薄く塗りつぶした枠は、2番目に回答が多かったもの。

■問5 ご近所とのつきあいについて、悩みなどがありますか。 (あてはまるものすべてに○)

「悩みや要望、困りごとはない」が45.8%と最も多く、次いで「地域、集落での行事、仕事が多くて忙しい」が16.5%、「隣近所との付き合いがわずらわしいと思うことがある」が14.0%となっています。

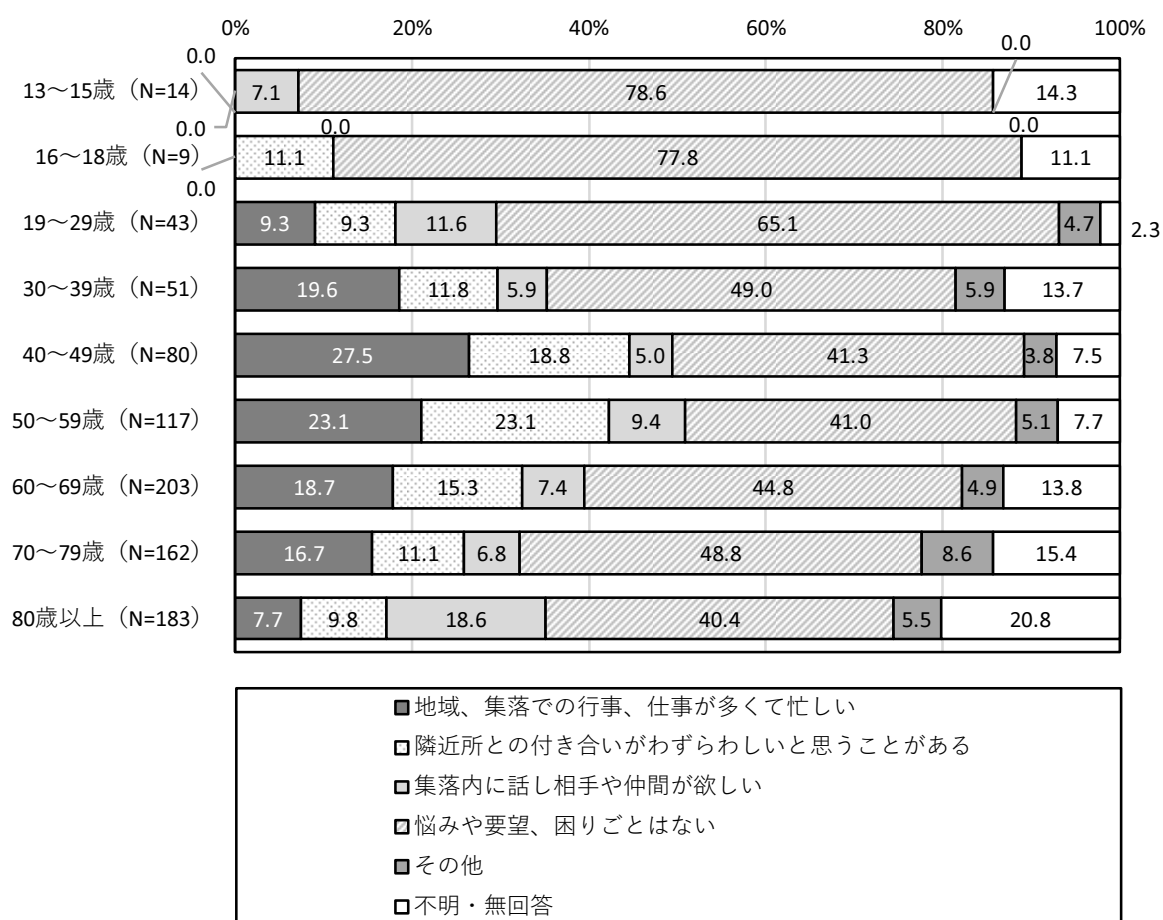


【年齢別クロス集計】

「地域、集落での行事、仕事が多くて忙しい」と「隣近所との付き合いがわずらわしいと思うことがある」を足した割合は、40～49歳まではほぼ増加傾向にあり、その後、減少に転じています。仕事の忙しさや地域での責任や役割の増加が、わずらわしさを感じさせているとも考えられます。

「集落内に話し相手や仲間が欲しい」は80歳以上で18.6%と最も多く、次いで19～29歳で11.6%となっています。19～29歳で回答が1割を超えていることは、集落内に同世代が少ない若者が、孤立感を抱えているためとも考えられます。

「悩みや要望、困りごとはない」は、13～15歳で78.6%と最も多く、逆に80歳以上で40.4%と最も少なくなっています。



【集落別クロス集計】

丸味と小城を除くすべての集落で、「悩みや要望、困りごとはない」が最も多くなっています。山田では「地域、集落での行事、仕事が多くて忙しい」が、境では「地域、集落での行事、仕事が多くて忙しい」と「集落内に話し相手や仲間が欲しい」も、同率で最も多くなっています。

丸味では「集落内に話し相手や仲間が欲しい」が、小城では「隣近所との付き合いがわずらわしいと思うことがある」が、それぞれ最も多くなっています。

小城で「悩みや要望、困りごとはない」が 9.1%と1割を下回っていることが、目を引きま

(%)

	地域、集落での 行事、仕事が多 くて忙しい	隣近所との付き 合いがわずらわ しいと思うこと がある	集落内に話し相 手や仲間が欲し い	悩みや要望、困 りごとはない	その他	不明・ 無回答
入江 (N=46)	10.9	19.6	15.2	52.2	6.5	8.7
和佐父 (N=28)	10.7	14.3	14.3	42.9	3.6	17.9
和田 (N=49)	6.1	10.2	6.1	57.1	0.0	20.4
長板 (N=113)	26.5	15.0	11.5	41.6	6.2	10.6
熊波(N=69)	20.3	17.4	10.1	40.6	2.9	18.8
相岡 (N=83)	9.6	14.5	6.0	49.4	7.2	13.3
丸味 (N=20)	5.0	10.0	35.0	30.0	15.0	5.0
川会 (N=70)	21.4	11.4	7.1	54.3	4.3	7.1
高津 (N=87)	17.2	18.4	8.0	48.3	5.7	8.0
長須 (N=38)	18.4	7.9	5.3	50.0	2.6	21.1
味取 (N=87)	12.6	9.2	9.2	54.0	10.3	9.2
原 (N=34)	8.8	8.8	8.8	55.9	5.9	11.8
長瀬 (N=58)	12.1	13.8	10.3	43.1	8.6	17.2
山田 (N=61)	27.9	16.4	3.3	27.9	4.9	23.0
小城 (N=11)	9.1	36.4	18.2	9.1	0.0	27.3
境 (N=13)	23.1	0.0	23.1	23.1	0.0	30.8

表の濃く塗りつぶした枠は、最も回答が多かったもの。
薄く塗りつぶした枠は、2番目に回答が多かったもの。

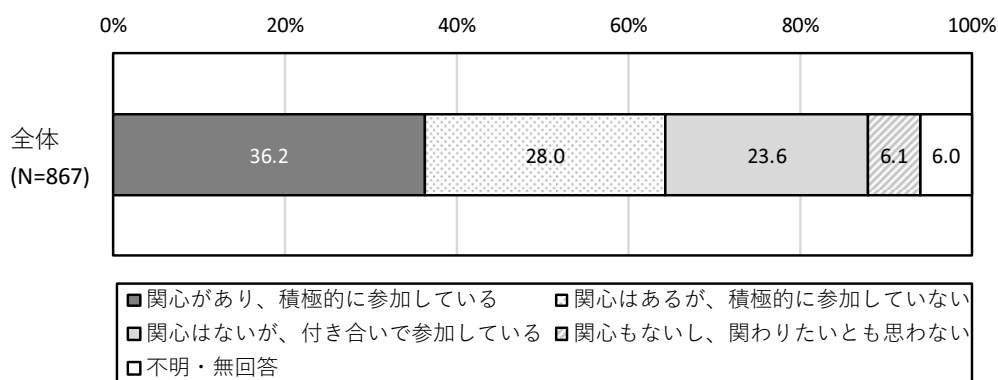
■問6 あなたは地域活動※に関心がありますか。(1つに○)
また、その理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

※地域活動：地域、集落の活動や共同作業、伝統行事や祭り、行事、イベントなど

「関心があり、積極的に参加している」が36.2%と最も多く、次いで「関心はあるが、積極的に参加していない」が28.0%、「関心はないが、付き合いで参加している」が23.6%となっています。

関心がある人（「関心があり、積極的に参加している」と「関心はあるが、積極的に参加していない」の合計）は64.2%、関心がない人（「関心はないが、付き合いで参加している」と「関心もないし、関わりたいとも思わない」の合計）は29.7%となっています。

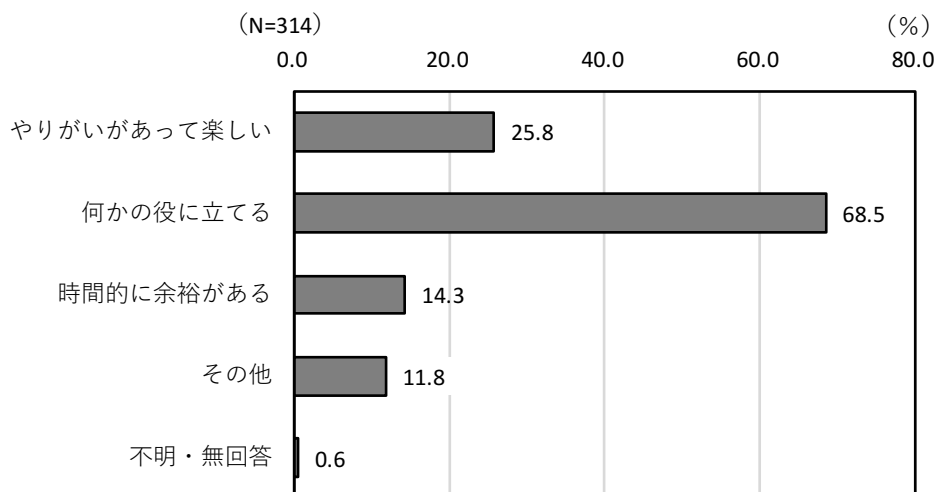
興味の有無に関わらず参加している人（「関心があり、積極的に参加している」と「関心はないが、付き合いで参加している」の合計）は59.8%、参加していない人（「関心はあるが、積極的に参加していない」と「関心もないし、関わりたいとも思わない」の合計）は34.1%となっています。



関心があり、積極的に参加している	}	関心がある人 64.2%
関心はあるが、積極的に参加していない		
関心はないが、付き合いで参加している	}	関心がない人 29.7%
関心もないし、関わりたいとも思わない		
関心があり、積極的に参加している	}	参加している人 59.8%
関心はないが、付き合いで参加している		
関心はあるが、積極的に参加していない	}	参加していない人 34.1%
関心もないし、関わりたいとも思わない		

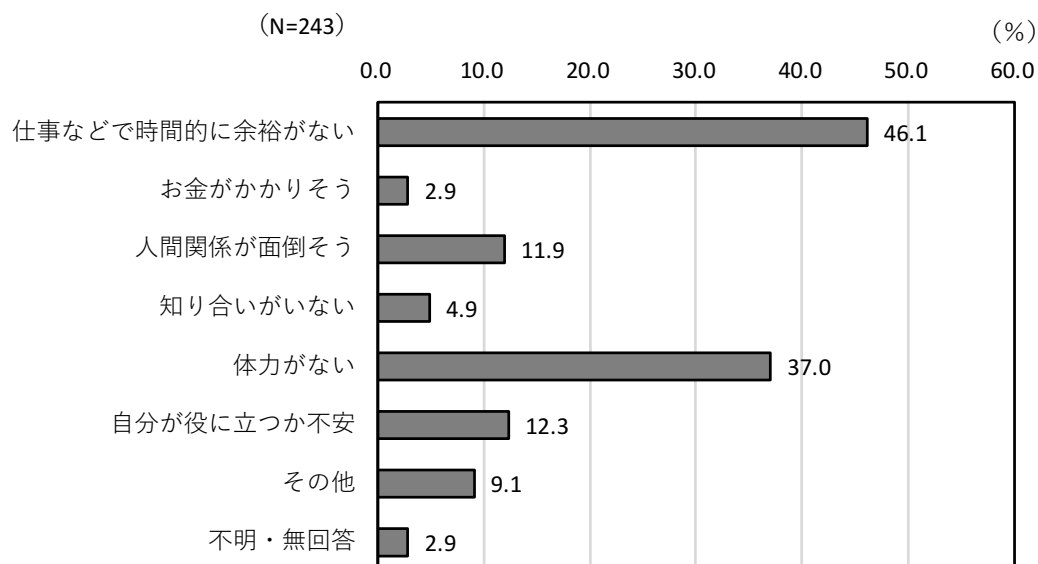
<①「関心があり、積極的に参加している」と答えた人の理由>

「何かの役に立てる」が68.5%と最も多く、次いで「やりがいがあって楽しい」が25.8%、時間的に余裕がある」14.3%となっています。



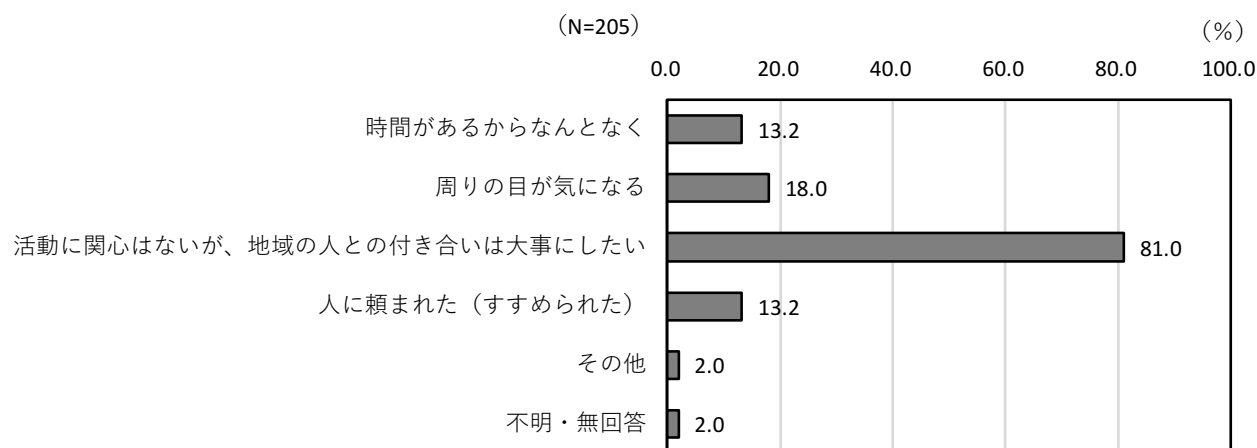
<②「関心はあるが、積極的に参加していない」と答えた人の理由>

「仕事などで時間的に余裕がない」が46.1%と最も多く、次いで「体力がない」が37.0%、「自分が役に立つか不安」が12.3%となっています。



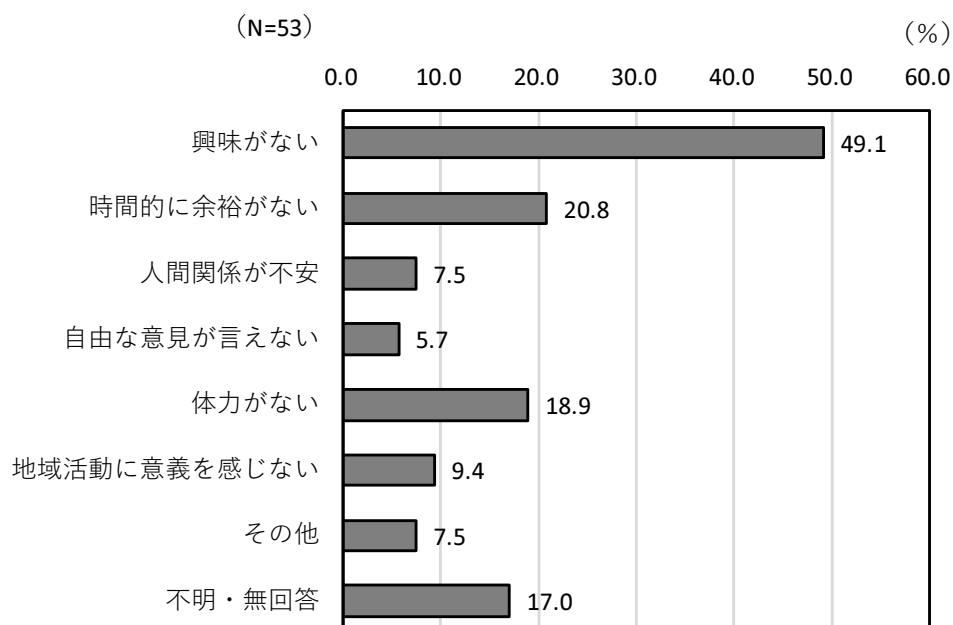
＜③「関心はないが、付き合いで参加している」と答えた人の理由＞

「活動に関心はないが、地域の人との付き合いは大事にしたい」が81.0%と最も多く、次いで「周りの目が気になる」が18.0%、「時間があるからなんとなく」と「人に頼まれた（すすめられた）」がともに13.2%となっています。



＜④「関心もないし、関わりたいとも思わない」と答えた人の理由＞

「興味がない」が49.1%と最も多く、次いで「時間的に余裕がない」が20.8%、「体力がない」が18.9%となっています。



【年齢別クロス集計】

50～59 歳以上で、「関心があり、積極的に参加している」が最も多くなっています。

16～18 歳と 19～29 歳、40～49 歳で、「関心はあるが、積極的に参加していない」がそれぞれ最も多くなっています。

13～15 歳と 30～39 歳では、「関心はないが、付き合いで参加している」が最も多くなっています。

30～39 歳以上では、「関心もないし、関わりたいとも思わない」が 1 割を下回っています。

比較的若い世代でも「関心はある」と答えている人が少なくないことから、その層にどう参加してもらうかが、重要な課題だと考えられます。

(%)

	関心があり、積極的に参加している	関心はあるが、積極的に参加していない	関心はないが、付き合いで参加している	関心もないし、関わりたいとも思わない	不明・無回答
13～15歳 (N=14)	21.4	21.4	35.7	21.4	0.0
16～18歳 (N=9)	22.2	55.6	0.0	11.1	11.1
19～29歳 (N=43)	14.0	39.5	23.3	23.3	0.0
30～39歳 (N=51)	21.6	27.5	35.3	7.8	7.8
40～49歳 (N=80)	22.5	36.3	32.5	7.5	1.3
50～59歳 (N=117)	35.9	27.4	25.6	7.7	3.4
60～69歳 (N=203)	43.8	21.7	25.6	3.4	5.4
70～79歳 (N=162)	46.3	26.5	21.6	0.6	4.9
80歳以上 (N=183)	36.6	30.6	14.2	6.6	12.0

表の濃く塗りつぶした枠は、最も回答が多かったもの。
薄く塗りつぶした枠は、2 番目に回答が多かったもの。

【集落別クロス集計】

川会、長須、味取、長瀬を除くすべての集落で、「関心があり、積極的に参加している」が最も多くなっています。

長須と味取では「関心はあるが、積極的に参加していない」が、川会と長瀬では「関心はないが、付き合いで参加している」が、それぞれ最も多くなっています。

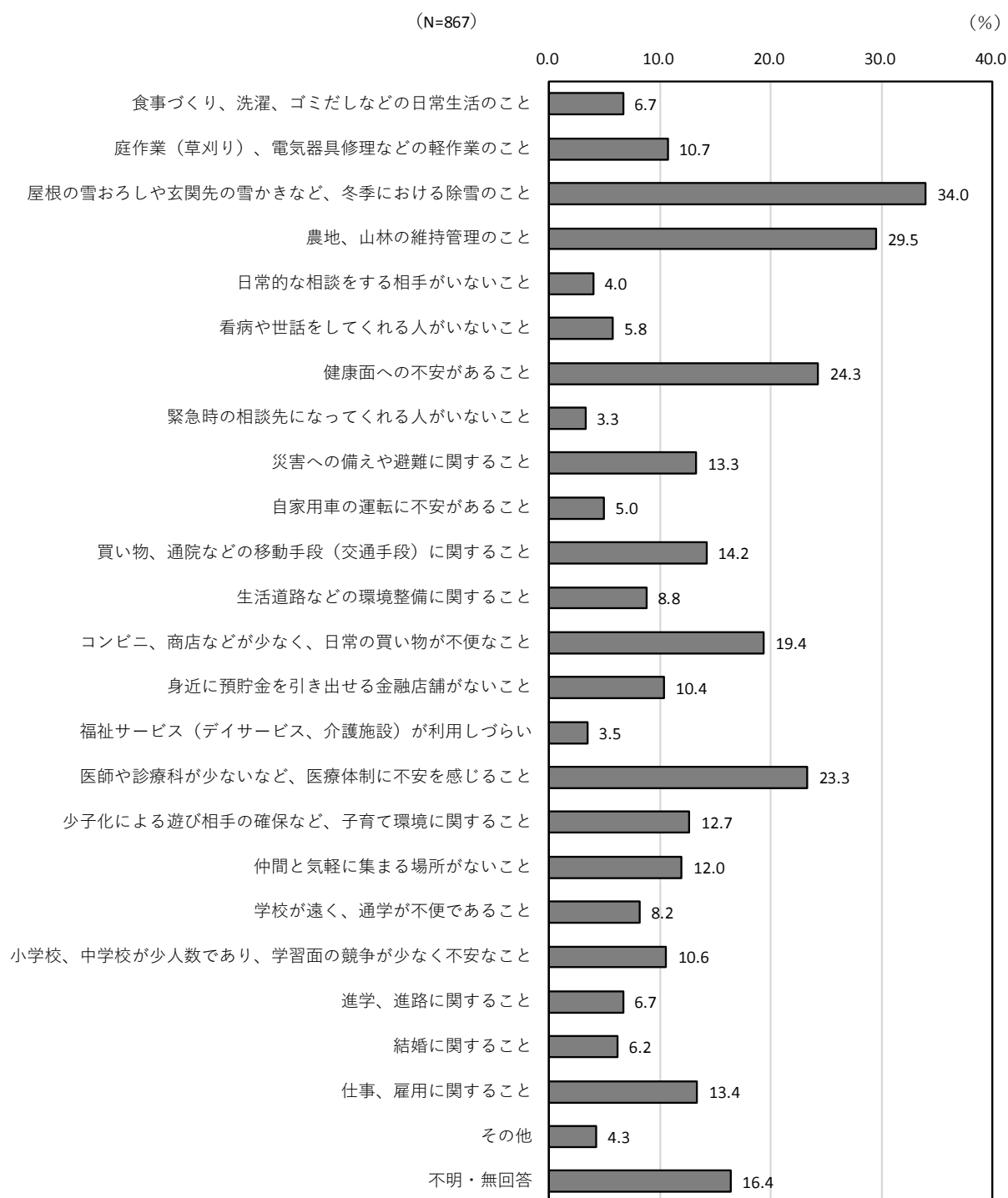
(%)

	関心があり、積極的に参加している	関心はあるが、積極的に参加していない	関心はないが、付き合いで参加している	関心もないし、関わりたいとも思わない	不明・無回答
入江 (N=46)	36.2	28.0	23.6	6.1	6.0
和佐父 (N=28)	37.0	34.8	17.4	2.2	8.7
和田 (N=49)	39.3	17.9	21.4	10.7	10.7
長板 (N=113)	51.0	26.5	16.3	4.1	2.0
熊波(N=69)	34.5	27.4	25.7	5.3	7.1
相岡 (N=83)	40.6	26.1	18.8	10.1	4.3
丸味 (N=20)	36.1	31.3	19.3	10.8	2.4
川会 (N=70)	20.0	25.0	30.0	20.0	5.0
高津 (N=87)	45.7	25.7	22.9	2.9	2.9
長須 (N=38)	28.7	35.6	20.7	9.2	5.7
味取 (N=87)	31.6	34.2	26.3	0.0	7.9
原 (N=34)	33.3	28.7	24.1	4.6	9.2
長瀬 (N=58)	29.4	17.6	50.0	0.0	2.9
山田 (N=61)	34.5	25.9	29.3	5.2	5.2
小城 (N=11)	36.1	27.9	21.3	4.9	9.8
境 (N=13)	45.5	18.2	18.2	9.1	9.1

表の濃く塗りつぶした枠は、最も回答が多かったもの。
薄く塗りつぶした枠は、2番目に回答が多かったもの。

■問7 日常生活について、不安に感じていること、困っていることはありますか。
(あてはまるものすべてに○)

「屋根の雪おろしや玄関先の雪かきなど、冬季における除雪のこと」が34.0%と最も多く、次いで「農地、山林の維持管理のこと」29.5%、「健康面への不安があること」が24.3%となっています。



【集落別クロス集計】

ほとんどの集落で、「屋根の雪おろしや玄関先の雪かきなど、冬季における除雪のこと」や「農地、山林の維持管理のこと」が最も多くなっています。

ただし、丸味では上記 2 項目に加えて「生活道路などの環境整備に関すること」と「医師や診療科が少ないなど、医療体制に不安を感じることも、同率で最も多くなっています。

また、味取では「医師や診療科が少ないなど、医療体制に不安を感じること」が、原では「コンビニ、商店などが少なく、日常の買い物が不便なこと」が、それぞれ最も多くなっています。

(項目が多いため、表を 3 分割して表示)

※表 1 / 3

(%)

	食事づくり、洗濯、ゴミ出しなどの日常生活のこと	庭作業（草刈り）、電気器具修理などの軽作業のこと	屋根の雪おろしや玄関先の雪かきなど、冬季における除雪のこと	農地、山林の維持管理のこと	日常的な相談をする相手がいないこと	看病や世話をしてくれる人がいないこと	健康面への不安があること	緊急時の相談先になってくれる人がいないこと
入江 (N=46)	13.0	10.9	43.5	10.9	2.2	6.5	30.4	0.0
和佐父 (N=28)	7.1	3.6	32.1	21.4	0.0	3.6	10.7	0.0
和田 (N=49)	2.0	20.4	30.6	34.7	2.0	6.1	20.4	2.0
長板 (N=113)	3.5	16.8	38.1	44.2	2.7	8.8	31.0	1.8
熊波 (N=69)	4.3	7.2	36.2	44.9	4.3	2.9	31.9	2.9
祖岡 (N=83)	10.8	9.6	43.4	32.5	6.0	8.4	27.7	4.8
丸味 (N=20)	15.0	20.0	40.0	40.0	10.0	20.0	35.0	15.0
川会 (N=70)	2.9	8.6	38.6	34.3	5.7	4.3	25.7	1.4
高津 (N=87)	11.5	11.5	34.5	19.5	6.9	8.0	25.3	9.2
長須 (N=38)	7.9	18.4	18.4	34.2	0.0	0.0	18.4	2.6
味取 (N=87)	3.4	5.7	20.7	12.6	5.7	1.1	20.7	1.1
原 (N=34)	2.9	2.9	20.6	11.8	0.0	2.9	17.6	8.8
長瀬 (N=58)	8.6	3.4	29.3	31.0	1.7	3.4	13.8	0.0
山田 (N=61)	9.8	13.1	41.0	29.5	1.6	6.6	27.9	1.6
小城 (N=11)	0.0	9.1	45.5	9.1	9.1	9.1	9.1	9.1
境 (N=13)	0.0	7.7	23.1	46.2	15.4	7.7	0.0	7.7

表の濃く塗りつぶした枠は、最も回答が多かったもの。
薄く塗りつぶした枠は、2 番目に回答が多かったもの。

※表 2 / 3

(%)

	災害への備えや避難に関すること	自家用車の運転に不安があること	買い物、通院などの移動手段（交通手段）に関すること	生活道路などの環境整備に関すること	コンビニ、商店などが少なく、日常の買い物が不便なこと	身近に預貯金を引き出せる金融店舗がないこと	福祉サービス（デイサービス、介護施設）が利用しづらい	医師や診療科が少ないなど、医療体制に不安を感じることに
入江（N=46）	6.5	8.7	15.2	4.3	6.5	2.2	6.5	13.0
和佐父（N=28）	10.7	7.1	0.0	14.3	3.6	10.7	3.6	0.0
和田（N=49）	16.3	0.0	10.2	2.0	6.1	4.1	6.1	20.4
長板（N=113）	14.2	6.2	12.4	5.3	17.7	11.5	2.7	33.6
熊波（N=69）	15.9	10.1	14.5	7.2	24.6	10.1	1.4	26.1
祖岡（N=83）	15.7	9.6	15.7	24.1	18.1	13.3	2.4	16.9
丸味（N=20）	10.0	0.0	30.0	40.0	25.0	10.0	10.0	40.0
川会（N=70）	12.9	7.1	15.7	7.1	25.7	8.6	0.0	24.3
高津（N=87）	17.2	3.4	11.5	4.6	16.1	10.3	4.6	16.1
長須（N=38）	18.4	0.0	21.1	10.5	21.1	13.2	0.0	15.8
味取（N=87）	6.9	1.1	17.2	11.5	21.8	6.9	4.6	31.0
原（N=34）	5.9	2.9	11.8	11.8	32.4	20.6	0.0	23.5
長瀬（N=58）	12.1	3.4	12.1	3.4	29.3	10.3	5.2	22.4
山田（N=61）	21.3	3.3	16.4	1.6	24.6	18.0	6.6	29.5
小城（N=11）	0.0	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	18.2
境（N=13）	0.0	7.7	15.4	0.0	15.4	7.7	0.0	23.1

※表 3 / 3

(%)

	少子化による遊び相手の確保など、子育て環境に関すること	仲間と気軽に集まる場所がないこと	学校が遠く、通学が不便であること	小学校、中学校が少人数であり、学習面の競争が少なく不安なこと	進学、進路に関すること	結婚に関すること	仕事、雇用に関すること	その他	不明・無回答
入江（N=46）	4.3	10.9	2.2	2.2	6.5	4.3	10.9	6.5	19.6
和佐父（N=28）	3.6	10.7	10.7	7.1	14.3	0.0	7.1	0.0	32.1
和田（N=49）	12.2	12.2	4.1	6.1	4.1	2.0	8.2	6.1	12.2
長板（N=113）	16.8	16.8	15.0	17.7	9.7	7.1	17.7	3.5	10.6
熊波（N=69）	13.0	10.1	8.7	7.2	7.2	5.8	14.5	1.4	15.9
祖岡（N=83）	13.3	10.8	6.0	8.4	12.0	4.8	19.3	2.4	10.8
丸味（N=20）	25.0	10.0	10.0	15.0	5.0	5.0	10.0	20.0	10.0
川会（N=70）	17.1	18.6	1.4	14.3	2.9	7.1	10.0	4.3	10.0
高津（N=87）	4.6	8.0	1.1	1.1	0.0	6.9	11.5	3.4	20.7
長須（N=38）	5.3	13.2	5.3	13.2	2.6	0.0	10.5	7.9	18.4
味取（N=87）	10.3	11.5	4.6	5.7	4.6	10.3	11.5	2.3	19.5
原（N=34）	17.6	11.8	2.9	17.6	11.8	8.8	20.6	5.9	14.7
長瀬（N=58）	19.0	13.8	19.0	17.2	3.4	10.3	12.1	8.6	13.8
山田（N=61）	14.8	6.6	18.0	13.1	11.5	4.9	9.8	3.3	23.0
小城（N=11）	9.1	0.0	9.1	9.1	0.0	9.1	18.2	0.0	45.5
境（N=13）	23.1	15.4	23.1	38.5	15.4	7.7	30.8	0.0	23.1

表の濃く塗りつぶした枠は、最も回答が多かったもの。
薄く塗りつぶした枠は、2番目に回答が多かったもの。

■問 8 地域や集落で実施している活動、事業に対するあなたの満足度と重要度を、それぞれ5段階で評価してください。(それぞれ1つに○)

<満足度①>

以下の10項目では、いずれも「どちらともいえない」が最も多くなっています。

(N=867)

(%)

	満足	やや満足	どちらとも いえない	やや不満	不満	不明・ 無回答
① 集落、地域内の付き合いについて	19.8	28.5	33.1	6.0	1.2	11.4
② 道路や河川などの維持管理作業について	6.9	19.4	40.9	13.4	3.7	15.7
③ 側溝清掃などの地域内の美化活動について	10.4	23.9	37.0	9.2	3.5	16.0
④ 防火、救命などの消防活動について	11.5	24.9	40.3	6.0	1.4	15.9
⑤ 避難訓練などの防災活動について	11.5	25.1	40.6	6.6	1.2	15.0
⑥ 見回りなどの防犯活動について	4.7	13.8	53.2	8.4	2.0	17.9
⑦ 公園、集会所などの維持管理について	11.3	28.0	37.4	6.5	1.5	15.3
⑧ 祭りなどの祭礼イベントについて	16.0	28.8	34.0	5.3	2.2	13.6
⑨ 敬老会などの高齢者を対象とした事業について	16.5	22.6	42.7	3.8	1.6	12.8
⑩ 地域の伝統文化、芸能の継承について	10.1	21.5	46.4	6.2	1.3	14.5

表の濃く塗りつぶした枠は、最も回答が多かったもの。
薄く塗りつぶした枠は、2番目に回答が多かったもの。

<満足度②>

以下の10項目では、いずれも「どちらともいえない」が最も多くなっています。

(N=867)

(%)

	満足	やや満足	どちらとも いえない	やや不満	不満	不明・ 無回答
⑪ 地域の歴史に関する保全活動について	3.3	11.0	63.0	4.4	1.8	16.5
⑫ サークル活動などの生涯学習事業について	2.5	8.7	61.5	4.2	0.9	22.3
⑬ 健康体操などの健康づくり活動について	4.4	14.5	56.2	5.5	0.8	18.6
⑭ 100円喫茶など、高齢者の生きがいづくりについて	1.6	5.9	61.1	7.7	2.3	21.3
⑮ 配食サービスなどの生活支援活動について	3.3	11.8	57.8	4.7	1.7	20.6
⑯ 買い物、通院などの移動支援活動について	2.4	8.4	49.8	14.4	6.2	18.7
⑰ 子ども会などの子ども対象事業について	3.0	11.2	53.9	5.4	2.2	24.3
⑱ 登下校の見守りなどの子どもの安全を支える活動について	5.8	14.4	49.0	5.7	2.0	23.2
⑲ 子育てなどの相談ができる場や人について	2.1	6.2	58.1	5.0	2.5	26.1
⑳ 保護者同士が交流できる場について	1.6	7.3	58.7	4.3	1.8	26.3

表の濃く塗りつぶした枠は、最も回答が多かったもの。
薄く塗りつぶした枠は、2番目に回答が多かったもの。

<満足度③>

以下の 10 項目では、いずれも「どちらともいえない」が最も多くなっています。

(N=867)

(%)

	満足	やや満足	どちらとも いえない	やや不満	不満	不明・ 無回答
㉑ 日常的な不安や悩みが相談できる場や人について	2.9	8.8	55.2	7.4	2.3	23.4
㉒ 地域内のスポーツ活動について	3.1	10.5	55.6	7.2	2.1	21.6
㉓ 運動会などの地域内のスポーツ大会について	5.1	16.7	49.4	5.9	2.4	20.5
㉔ 農地、山林などの維持管理について	2.0	6.7	52.4	11.9	5.7	21.5
㉕ 散策、収穫体験など、地域の魅力を体験する活動について	1.7	6.0	61.1	6.3	2.0	22.8
㉖ 特産品の開発など、地域の産物を販売する活動について	2.1	10.3	54.3	9.1	2.1	22.1
㉗ 状況把握など、空き家の管理活動について	0.8	3.0	47.4	18.5	9.8	20.5
㉘ 住民との交流など、移住希望者の受け入れについて	1.3	5.5	60.1	7.4	3.3	22.4
㉙ 地域広報紙の作成など、地域内での情報共有について	4.2	14.3	52.1	6.5	1.2	21.8
㉚ インターネットを活用した地域出身者等への広報について	1.3	3.5	62.9	5.4	2.3	24.7

表の濃く塗りつぶした枠は、最も回答が多かったもの。
薄く塗りつぶした枠は、2 番目に回答が多かったもの。

<重要度①>

以下の ① ② ③ ⑥ ⑦ ⑧ の各項目では、いずれも「やや重要」が最も多くなっています。

④ ⑤ の両項目では、ともに「重要」が最も多くなっています。

⑨ ⑩ の両項目では、ともに「どちらともいえない」が最も多くなっています。

(N=867)

(%)

	重要	やや重要	どちらとも いえない	あまり重要 でない	重要では ない	不明・ 無回答
① 集落、地域内の付き合いについて	28.7	32.5	17.0	2.0	0.5	19.4
② 道路や河川などの維持管理作業について	24.3	35.5	17.3	1.2	0.3	21.3
③ 側溝清掃などの地域内の美化活動について	22.5	35.4	19.0	1.3	0.1	21.7
④ 防火、救命などの消防活動について	38.4	25.0	14.2	0.8	0.5	21.1
⑤ 避難訓練などの防災活動について	33.1	28.3	15.9	0.9	0.6	21.2
⑥ 見回りなどの防犯活動について	20.3	29.2	27.6	1.2	0.2	21.6
⑦ 公園、集会所などの維持管理について	16.5	35.3	25.0	1.6	0.3	21.2
⑧ 祭りなどの祭礼イベントについて	16.0	30.9	25.1	4.7	1.5	21.7
⑨ 敬老会などの高齢者を対象とした事業について	14.4	27.8	30.4	6.0	1.2	20.2
⑩ 地域の伝統文化、芸能の継承について	12.1	30.0	31.6	5.7	0.9	19.7

表の濃く塗りつぶした枠は、最も回答が多かったもの。
薄く塗りつぶした枠は、2 番目に回答が多かったもの。

<重要度②>

以下の ⑩ ⑪ の両項目では、ともに「やや重要」が最も多くなっています。

それ以外の各項目では、いずれも「どちらともいえない」が最も多くなっています。

(N=867)

(%)

	重要	やや重要	どちらとも いえない	あまり重要 でない	重要では ない	不明・ 無回答
⑪ 地域の歴史に関する保全活動について	8.5	24.6	39.7	5.1	0.8	21.3
⑫ サークル活動などの生涯学習事業について	5.0	20.5	44.1	5.4	1.0	24.0
⑬ 健康体操などの健康づくり活動について	9.8	28.6	35.5	2.9	0.8	22.4
⑭ 100円喫茶など、高齢者の生きがいづくりについて	8.8	21.5	41.6	5.0	1.2	22.0
⑮ 配食サービスなどの生活支援活動について	17.1	28.8	29.9	2.0	0.3	21.9
⑯ 買い物、通院などの移動支援活動について	24.6	31.0	20.6	0.7	0.7	22.4
⑰ 子ども会などの子ども対象事業について	12.9	26.0	32.4	1.4	1.3	26.1
⑱ 登下校の見守りなどの子どもの安全を支える活動について	25.4	28.3	20.4	0.8	0.9	24.2
⑲ 子育てなどの相談ができる場や人について	19.3	22.4	30.4	1.0	0.7	26.2
⑳ 保護者同士が交流できる場について	12.1	23.3	35.2	1.2	0.8	27.5

表の濃く塗りつぶした枠は、最も回答が多かったもの。
薄く塗りつぶした枠は、2番目に回答が多かったもの。

<重要度③>

以下の ⑳ の項目では、「やや重要」が最も多くなっています。

それ以外の各項目では、いずれも「どちらともいえない」が最も多くなっています。

(N=867)

(%)

	重要	やや重要	どちらとも いえない	あまり重要 でない	重要では ない	不明・ 無回答
㉑ 日常的な不安や悩みが相談できる場や人について	15.0	26.2	31.8	1.5	0.6	24.9
㉒ 地域内のスポーツ活動について	6.7	21.8	40.7	4.3	2.0	24.6
㉓ 運動会などの地域内のスポーツ大会について	9.5	21.7	37.1	5.5	2.9	23.3
㉔ 農地、山林などの維持管理について	14.3	28.7	31.0	2.8	0.9	22.3
㉕ 散策、収穫体験など、地域の魅力を体験する活動について	6.2	20.3	41.6	5.9	2.2	23.8
㉖ 特産品の開発など、地域の産物を販売する活動について	12.7	25.8	33.7	2.7	0.6	24.6
㉗ 状況把握など、空き家の管理活動について	21.6	27.6	26.1	0.9	1.2	22.7
㉘ 住民との交流など、移住希望者の受け入れについて	12.0	22.0	36.2	3.8	0.8	25.1
㉙ 地域広報紙の作成など、地域内での情報共有について	10.4	24.9	34.8	3.6	1.5	24.8
㉚ インターネットを活用した地域出身者等への広報について	6.5	16.3	43.5	5.7	2.1	26.1

表の濃く塗りつぶした枠は、最も回答が多かったもの。
薄く塗りつぶした枠は、2番目に回答が多かったもの。

満足度	まとめ
-----	-----

①から③⑩までの各項目の中で、満足度が高かった（「満足」と「やや満足」の合計が多かった）のは、以下の10項目です。

順位	項目	「満足」と 「やや満足」の合計 (%)
1	① 集落、地域内の付き合いについて	48.3
2	⑧ 祭りなどの祭礼イベントについて	44.8
3	⑦ 公園、集会所などの維持管理について	39.3
4	⑨ 敬老会などの高齢者を対象とした事業について	39.1
5	⑤ 避難訓練などの防災活動について	36.6
6	④ 防火、救命などの消防活動について	36.4
7	③ 側溝清掃などの地域内の美化活動について	34.3
8	⑩ 地域の伝統文化、芸能の継承について	31.6
9	② 道路や河川などの維持管理作業について	26.3
10	②③ 運動会などの地域内のスポーツ大会について	21.8

①から③⑩までの各項目の中で、満足度が低かった（「やや不満」と「不満」の合計が多かった）のは、以下の10項目です。

順位	項目	「やや不満」と 「不満」の合計 (%)
1	②⑦ 状況把握など、空き家の管理活動について	28.3
2	①⑥ 買い物、通院などの移動支援活動について	20.6
3	②④ 農地、山林などの維持管理について	17.6
4	② 道路や河川などの維持管理作業について	17.1
5	③ 側溝清掃などの地域内の美化活動について	12.7
6	②⑥ 特産品の開発など、地域の産物を販売する活動について	11.2
7	②⑧ 住民との交流など、移住希望者の受け入れについて	10.7
8	⑥ 見回りなどの防犯活動について	10.4
9	①④ 100円喫茶など、高齢者の生きがいくりにについて	10.0
10	②① 日常的な不安や悩みが相談できる場や人について	9.7

重要度	まとめ
-----	-----

①から③⑩までの各項目の中で、重要度が高かった（「重要」と「やや重要」の合計が多かった）のは、以下の 10 項目です。

順位	項目	「重要」と 「やや重要」の合計 (%)
1	④ 防火、救命などの消防活動について	63.4
2	⑤ 避難訓練などの防災活動について	61.4
3	① 集落、地域内の付き合いについて	61.2
4	② 道路や河川などの維持管理作業について	59.8
5	③ 側溝清掃などの地域内の美化活動について	57.9
6	⑯ 買い物、通院などの移動支援活動について	55.6
7	⑱ 登下校の見守りなどの子どもの安全を支える活動について	53.7
8	⑦ 公園、集会所などの維持管理について	51.8
9	⑥ 見回りなどの防犯活動について	49.5
10	⑳ 状況把握など、空き家の管理活動について	49.2

①から③⑩までの各項目の中で、重要度が低かった（「あまり重要ではない」と「重要ではない」の合計が多かった）のは、以下の 10 項目です。

順位	項目	「あまり重要ではない」と 「重要ではない」の合計 (%)
1	㉓ 運動会などの地域内のスポーツ大会について	8.4
2	㉕ 散策、収穫体験など、地域の魅力を体験する活動について	8.1
3	③⑩ インターネットを活用した地域出身者等への広報について	7.8
4	⑨ 敬老会などの高齢者を対象とした事業について	7.2
5	⑩ 地域の伝統文化、芸能の継承について	6.6
6	⑫ サークル活動などの生涯学習事業について	6.4
7	㉒ 地域内のスポーツ活動について	6.3
8	⑧ 祭りなどの祭礼イベントについて	6.2
9	⑭ 100 円喫茶など、高齢者の生きがいづくりについて	6.2
10	⑪ 地域の歴史に関する保全活動について	5.9

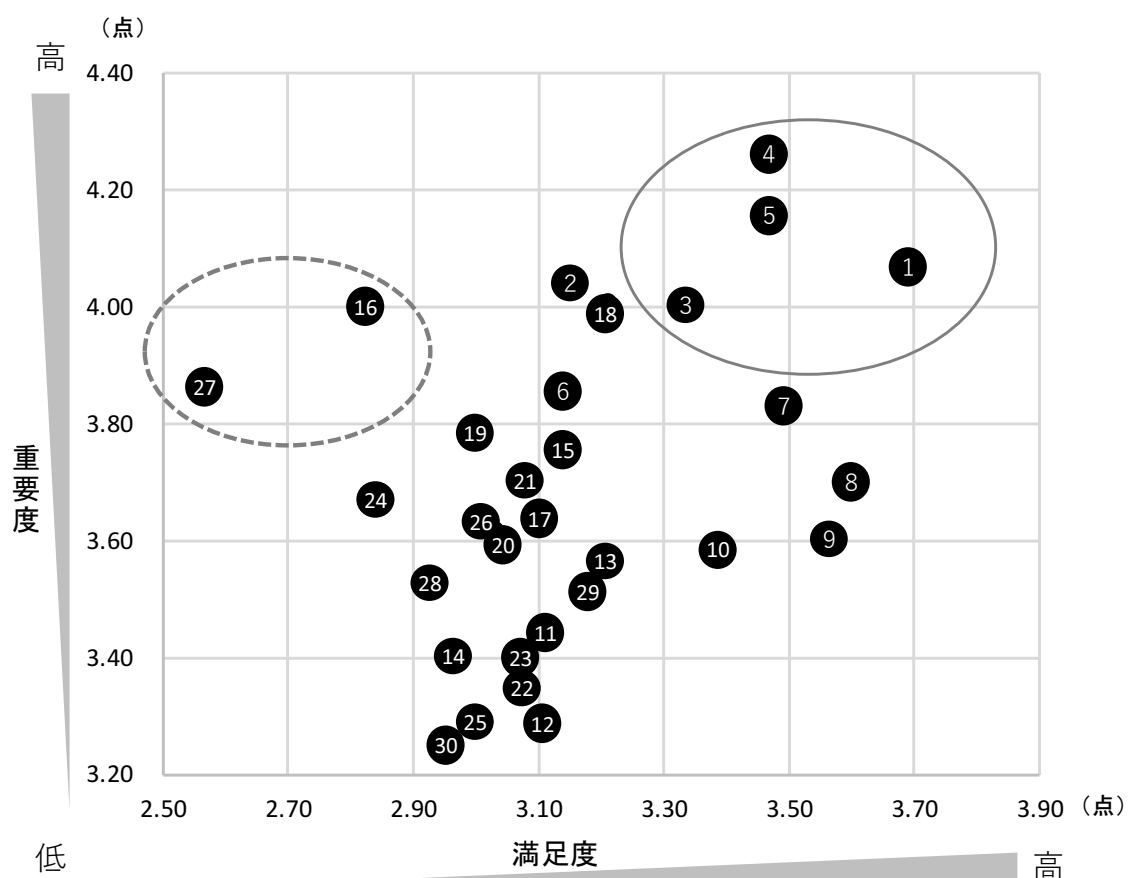
満足度・重要度 まとめ（散布図）

満足度、重要度ともに高かったのは、以下の4項目となっています。

- ① 集落、地域内の付き合いについて
- ③ 側溝清掃などの地域内の美化活動について
- ④ 防火、救命などの消防活動について
- ⑤ 避難訓練などの防災活動について」（下図の実線の楕円で囲んだ部分）

重要度が高いにもかかわらず、満足度が低いのは、以下の2項目となっています。

- ⑬ 買い物、通院などの移動支援活動について
- ⑭ 状況把握など、空き家の管理活動について（下図の点線の楕円で囲んだ部分）

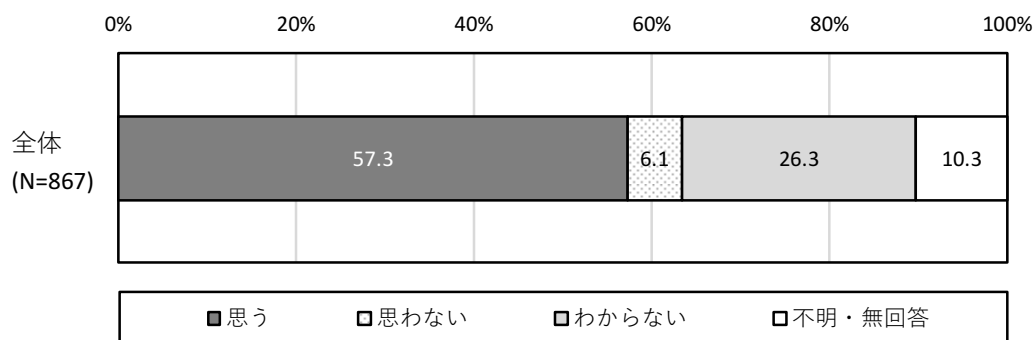


— 図の見方 —

各項目に対する回答を、「満足」「重要」は5点、「やや満足」と「やや重要」は4点、「どちらともいえない」は3点、「やや不満」と「あまり重要ではない」は2点、「不満」と「重要ではない」は1点として回答者全員分を合計。それを回答者数で割った平均値を点数（指数）として図上に配置した。

■問9 あなたは、地域、集落の運営に女性や若者の声をもっと反映されるべきだと思いますか。(1つに○)

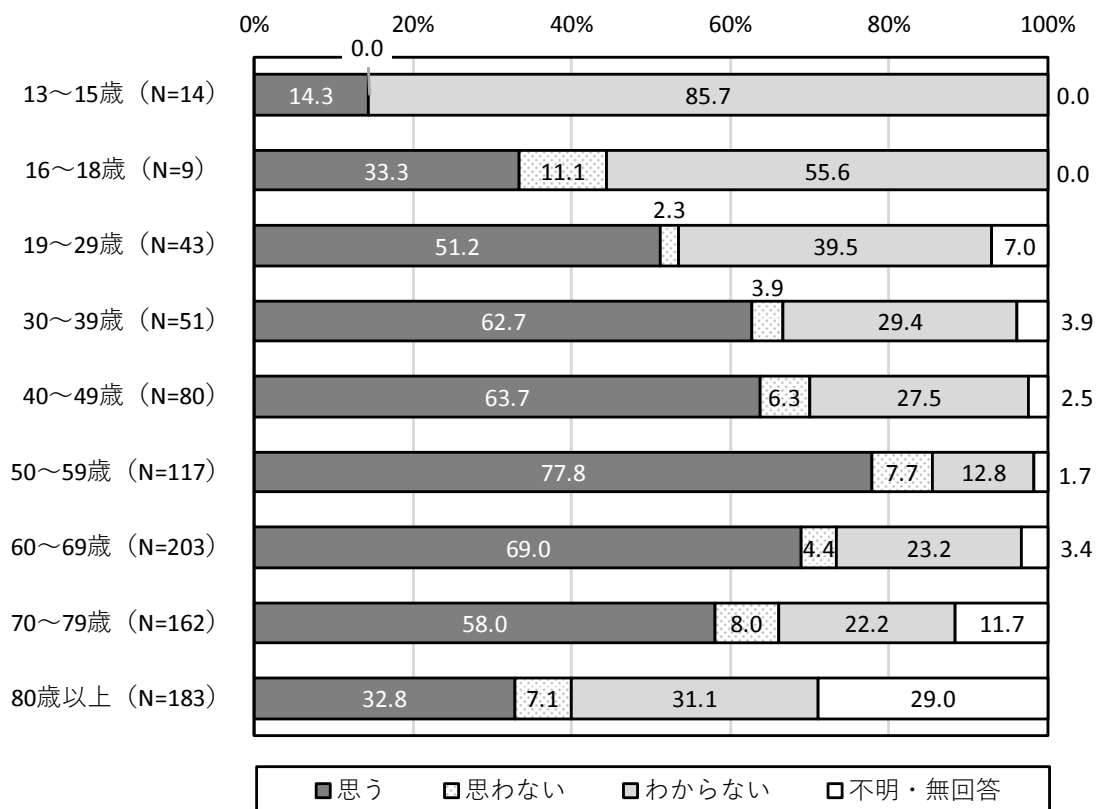
「思う」が57.1%と最も多く、次いで「わからない」が26.3%、「思わない」が6.1%となっています。



【年齢別クロス集計】

「思う」の割合が、年齢層が上がるとともに増加し、50～59歳をピークに減少に転じています。

13～15歳では、「思わない」と答えた人はいませんでした。



【集落別クロス集計】

丸味を除くすべての集落で、「思う」が最も多くなっています。和佐父では、「わからない」も同率で最も多くなっています。

丸味では、「わからない」が最も多くなっています。

(%)

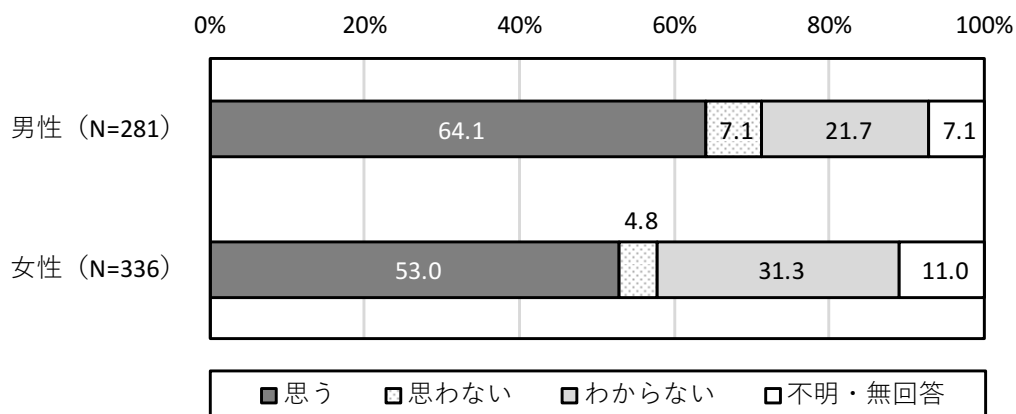
	思う	思わない	わからない	不明・無回答
入江 (N=46)	58.7	2.2	23.9	15.2
和佐父 (N=28)	35.7	14.3	35.7	14.3
和田 (N=49)	61.2	12.2	26.5	0.0
長板 (N=113)	65.5	6.2	23.0	5.3
熊波 (N=69)	63.8	0.0	24.6	11.6
祖岡 (N=83)	51.8	4.8	30.1	13.3
丸味 (N=20)	35.0	5.0	55.0	5.0
川会 (N=70)	62.9	4.3	25.7	7.1
高津 (N=87)	49.4	8.0	32.2	10.3
長須 (N=38)	44.7	7.9	28.9	18.4
味取 (N=87)	60.9	0.0	27.6	11.5
原 (N=34)	58.8	11.8	20.6	8.8
長瀬 (N=58)	62.1	10.3	17.2	10.3
山田 (N=61)	59.0	4.9	21.3	14.8
小城 (N=11)	54.5	27.3	9.1	9.1
境 (N=13)	53.8	7.7	23.1	15.4

表の濃く塗りつぶした枠は、最も回答が多かったもの。

【男女別クロス集計】

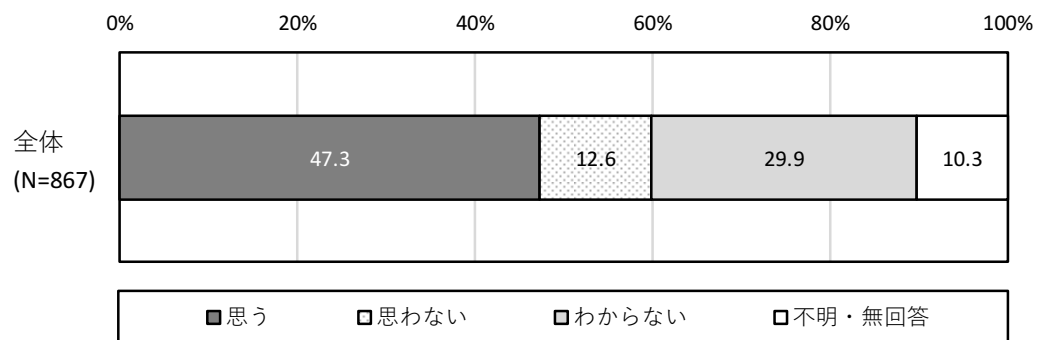
男女とも「思う」が最も多くなっています。

女性より男性のほうが、「思う」の割合が11.1ポイント多くなっています。



■問 10 あなたは、他の地域からの移住者を受け入れるべきだと思いますか。
(ひとつに○)

「思う」が47.3%と最も多く、次いで「わからない」が29.9%、「思わない」が12.6%となっています。

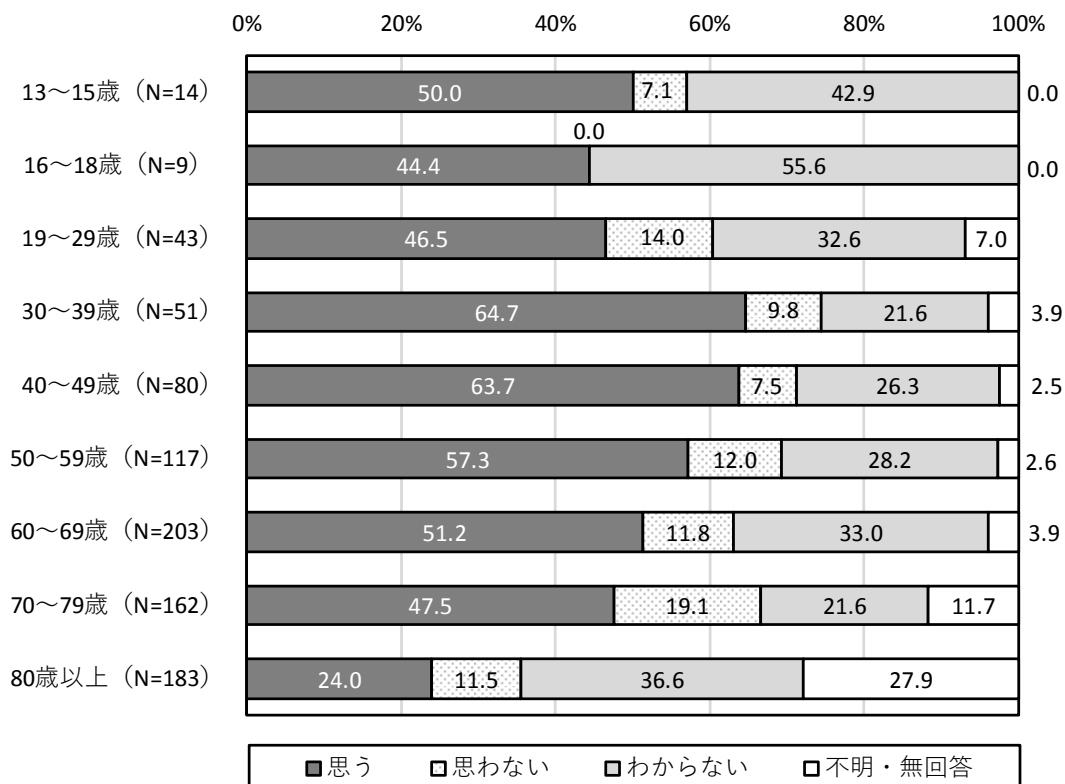


【年齢別クロス集計】

13～15歳では、「思う」が半数となっています。

16～18歳で「思う」がいったん減少したあと、年齢層が上がるとともに増加し、30～39歳をピークに減少に転じています。

16～18歳では、「思わない」と答えた人はいませんでした。



【集落別クロス集計】

丸味、高津、長須、山田を除くすべての集落で、「思う」が最も多くなっています。「思う」の割合が最も多かったのは、和田の73.5%となっています。

丸味、高津、長須、山田の各集落では「わからない」が最も多くなっています。

(%)

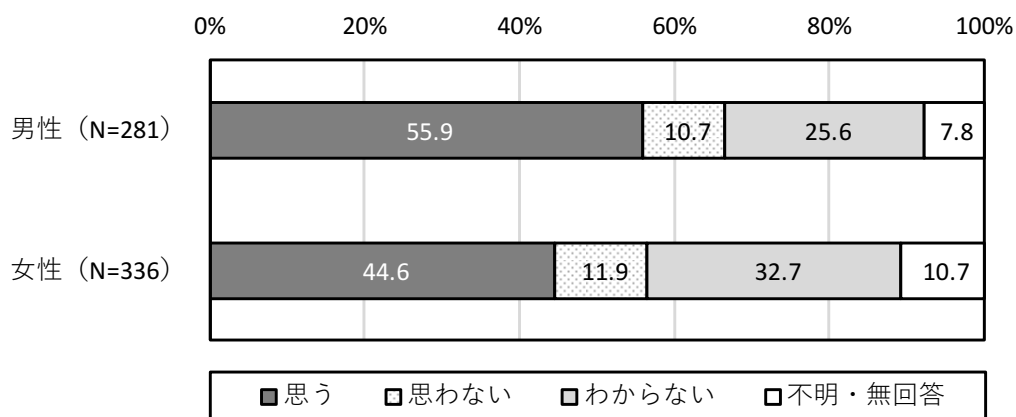
	思う	思わない	わからない	不明・無回答
入江 (N=46)	54.3	10.9	23.9	10.9
和佐父 (N=28)	35.7	21.4	25.0	17.9
和田 (N=49)	73.5	12.2	10.2	4.1
長板 (N=113)	59.3	11.5	23.0	6.2
熊波 (N=69)	49.3	5.8	31.9	13.0
祖岡 (N=83)	42.2	10.8	34.9	12.0
丸味 (N=20)	30.0	15.0	50.0	5.0
川会 (N=70)	61.4	1.4	31.4	5.7
高津 (N=87)	37.9	13.8	41.4	6.9
長須 (N=38)	23.7	21.1	36.8	18.4
味取 (N=87)	39.1	14.9	33.3	12.6
原 (N=34)	47.1	20.6	23.5	8.8
長瀬 (N=58)	46.6	19.0	22.4	12.1
山田 (N=61)	36.1	8.2	41.0	14.8
小城 (N=11)	54.5	27.3	9.1	9.1
境 (N=13)	53.8	23.1	7.7	15.4

表の濃く塗りつぶした枠は、最も回答が多かったもの。

【男女別クロス集計】

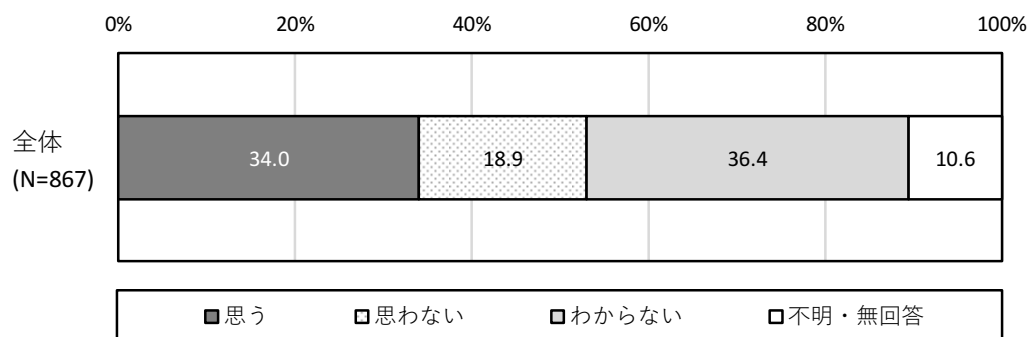
男女とも「思う」が最も多くなっています。

女性より男性のほうが、「思う」の割合が11.3ポイント多くなっています。



■問 11 あなたは、他の地域との交流を行っていきたいと思いますか。(1つに○)

「わからない」が36.4%と最も多く、次いで「思う」が34.0%、「思わない」が18.9%となっています。



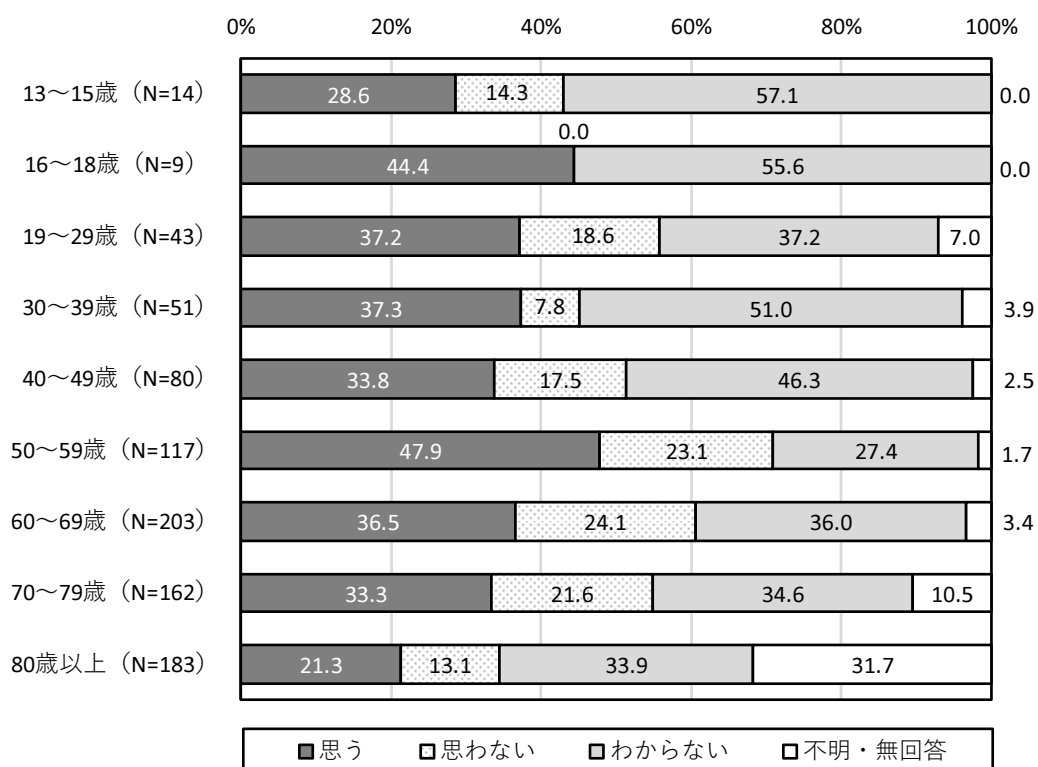
【年齢別クロス集計】

年齢層により、回答にばらつきがみられます。

16～18歳と50～59歳で「思う」が4割を超えています、他の年齢層では4割未満となっています。

中でも13～15歳と80歳以上では、「思う」が2割台となっています。

16～18歳では、「思わない」と答えた人はいませんでした。



【集落別クロス集計】

問9～問14の他の設問の結果と比較して、「わからない」が多かった集落が目立ちます。

入江、長板、熊波、相岡、長瀬、境の6集落では「思う」が最も多くなっています。

小城では、「思わない」が最も多くなっています。

他の集落では、「わからない」が最も多くなっています。

(%)

	思う	思わない	わからない	不明・無回答
入江 (N=46)	39.1	19.6	32.6	8.7
和佐父 (N=28)	25.0	25.0	32.1	17.9
和田 (N=49)	36.7	22.4	40.8	0.0
長板 (N=113)	38.1	19.5	36.3	6.2
熊波 (N=69)	42.0	14.5	29.0	14.5
相岡 (N=83)	41.0	18.1	27.7	13.3
丸味 (N=20)	20.0	25.0	50.0	5.0
川会 (N=70)	38.6	12.9	42.9	5.7
高津 (N=87)	26.4	19.5	44.8	9.2
長須 (N=38)	18.4	21.1	42.1	18.4
味取 (N=87)	29.9	17.2	37.9	14.9
原 (N=34)	29.4	17.6	41.2	11.8
長瀬 (N=58)	34.5	22.4	32.8	10.3
山田 (N=61)	31.1	18.0	36.1	14.8
小城 (N=11)	18.2	45.5	27.3	9.1
境 (N=13)	61.5	7.7	15.4	15.4

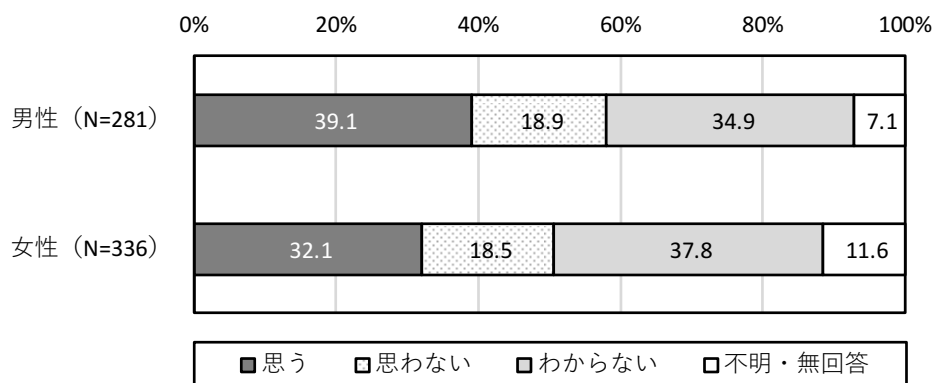
表の濃く塗りつぶした枠は、最も回答が多かったもの。

【男女別クロス集計】

男性では「思う」が、女性では「わからない」が、それぞれ最も多くなっています。

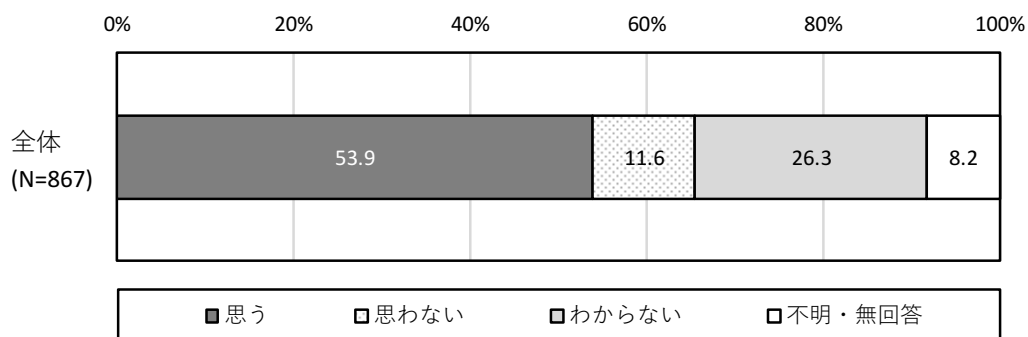
女性より男性のほうが、「思う」の割合が7.0ポイント多くなっています。

「思わない」は、男女ともほぼ同率となっています。



■問 12 あなたは、今後もこの地域、集落に住み続けたいと思いますか。(1つに○)

「思う」が53.9%と最も多く、次いで「わからない」が26.3%、「思わない」が11.6%となっています。

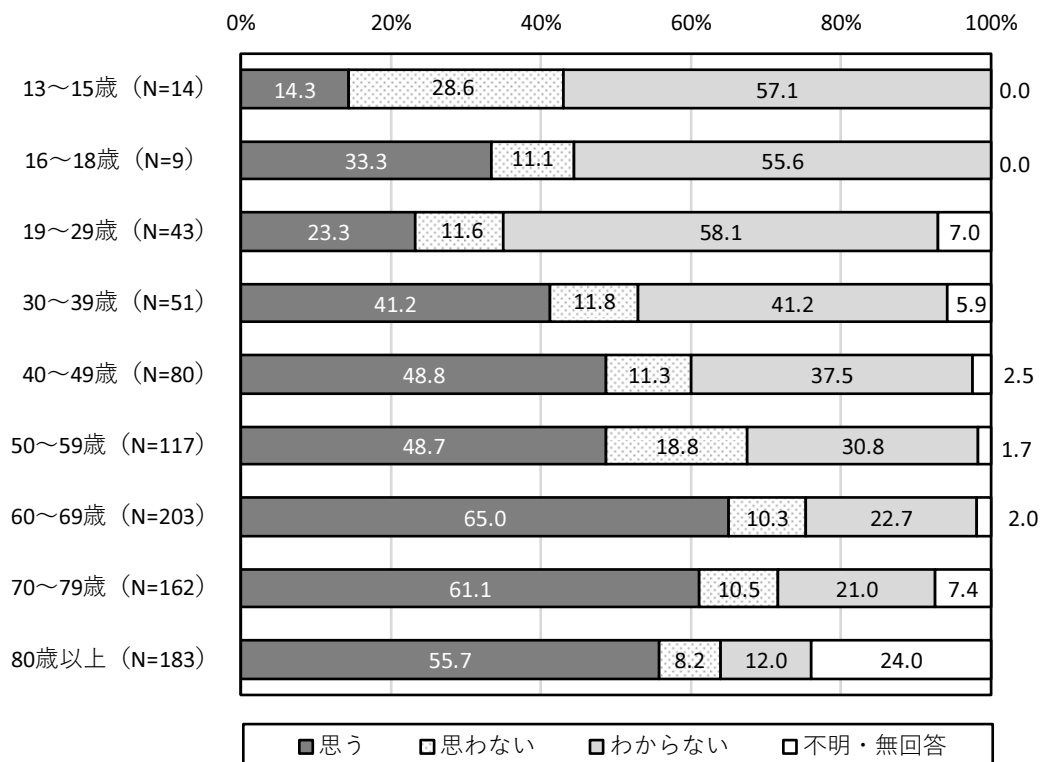


【年齢別クロス集計】

おおむね年齢層が上がるとともに「思う」の割合が多くなり、60～69歳をピークに減少に転じています。

60～69歳以上の年齢層では、「思う」の割合が半数を超えています。

一方、13～15歳では、「思わない」が28.6%と3割近くとなっています。



【集落別クロス集計】

境を除くすべての集落で、「思う」が最も多くなっています。

境では、「思わない」が46.2%と、半数近くとなっています。

(%)

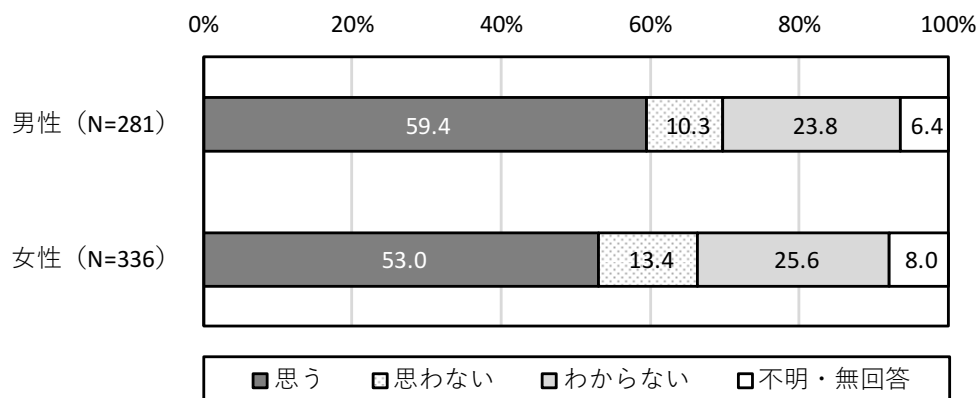
	思う	思わない	わからない	不明・無回答
入江 (N=46)	56.5	13.0	23.9	6.5
和佐父 (N=28)	35.7	21.4	32.1	10.7
和田 (N=49)	67.3	6.1	26.5	0.0
長板 (N=113)	60.2	12.4	21.2	6.2
熊波 (N=69)	63.8	7.2	17.4	11.6
祖岡 (N=83)	53.0	14.5	24.1	8.4
丸味 (N=20)	40.0	20.0	35.0	5.0
川会 (N=70)	52.9	5.7	35.7	5.7
高津 (N=87)	49.4	17.2	26.4	6.9
長須 (N=38)	55.3	7.9	18.4	18.4
味取 (N=87)	60.9	1.1	29.9	8.0
原 (N=34)	47.1	14.7	32.4	5.9
長瀬 (N=58)	50.0	10.3	29.3	10.3
山田 (N=61)	45.9	21.3	21.3	11.5
小城 (N=11)	45.5	9.1	36.4	9.1
境 (N=13)	15.4	23.1	46.2	15.4

表の濃く塗りつぶした枠は、最も回答が多かったもの。

【男女別クロス集計】

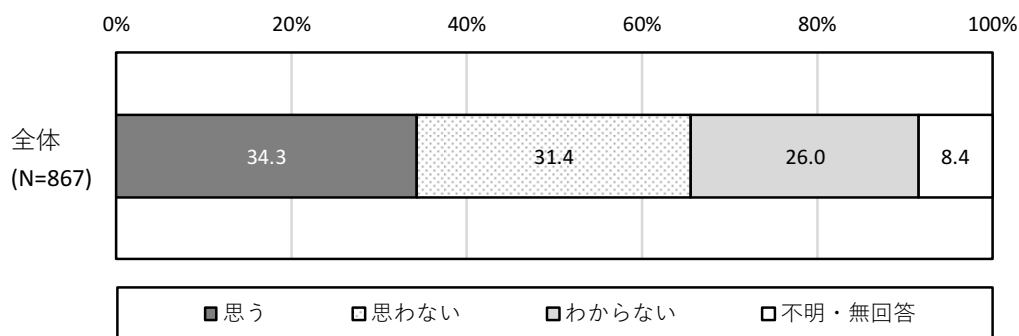
男女ともに、「思う」が最も多く、いずれも半数を超えています。

女性より男性のほうが、「思う」の割合が6.4ポイント多くなっています。



■問 13 あなたは、自分の子どもにこの地域、集落に住み続けて欲しいと思いますか。子どもがいない方も「もし子どもがいたら」と考えてお答えください。
(1つに○)

「思う」が34.3%と最も多く、次いで「思わない」が31.4%、「わからない」が26.0%となっています。「思う」と「思わない」が拮抗しています。

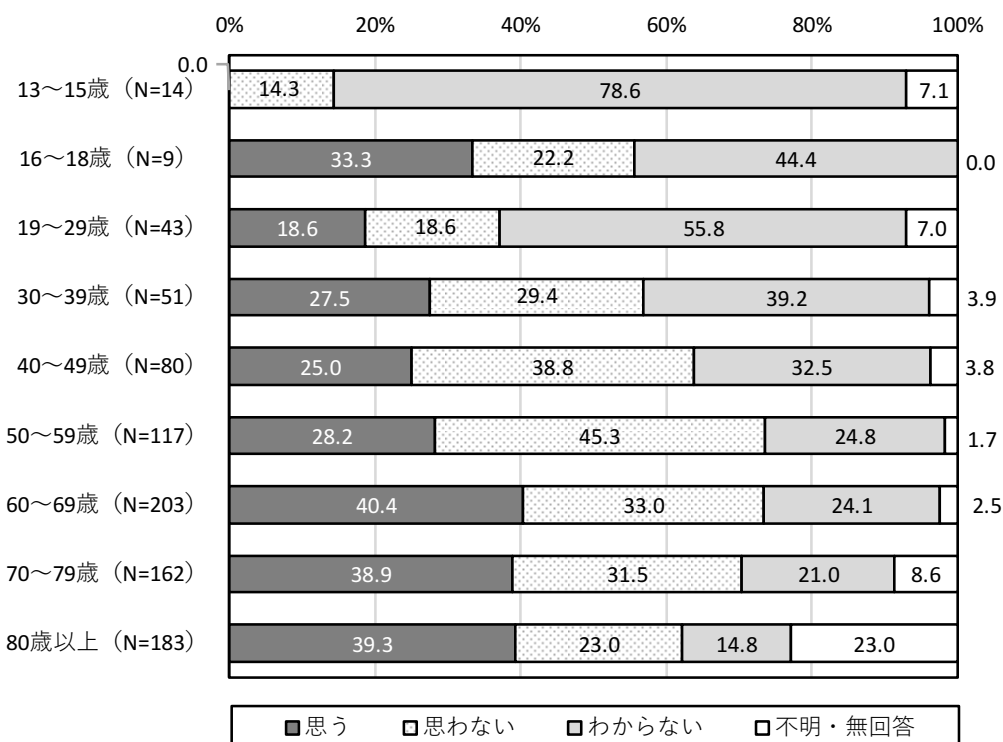


【年齢別クロス集計】

13～15 歳では、「思う」と答えた人はなく、「わからない」が78.6%と8割近くとなっています。

16～18 歳では、「思う」が3割を超えていますが、19～29 歳、30～39 歳、40～49 歳の各年齢層では、「思う」が3割を下回っており、特に19～29 歳では18.6%と、2割を下回っています。

60～69歳以上では、「思う」が4割前後となっています。



【集落別クロス集計】

問9～問14の他の設問の結果と比較して、「思わない」が多かった集落が目立ちます。

和田、長板、熊波、長須、味取、長瀬の6集落では、「思う」が最も多くなっています。

和佐父、祖岡、丸味、高津、原、山田、小城、境の8集落では、「思わない」が最も多くなっています。

(%)

	思う	思わない	わからない	不明・無回答
入江 (N=46)	32.6	23.9	37.0	6.5
和佐父 (N=28)	17.9	42.9	25.0	14.3
和田 (N=49)	55.1	20.4	24.5	0.0
長板 (N=113)	44.2	31.0	17.7	7.1
熊波 (N=69)	43.5	26.1	21.7	8.7
祖岡 (N=83)	30.1	38.6	25.3	6.0
丸味 (N=20)	20.0	55.0	20.0	5.0
川会 (N=70)	30.0	28.6	35.7	5.7
高津 (N=87)	26.4	41.4	25.3	6.9
長須 (N=38)	31.6	26.3	26.3	15.8
味取 (N=87)	39.1	20.7	31.0	9.2
原 (N=34)	29.4	38.2	26.5	5.9
長瀬 (N=58)	34.5	20.7	31.0	13.8
山田 (N=61)	31.1	36.1	16.4	16.4
小城 (N=11)	0.0	63.6	36.4	0.0
境 (N=13)	15.4	38.5	30.8	15.4

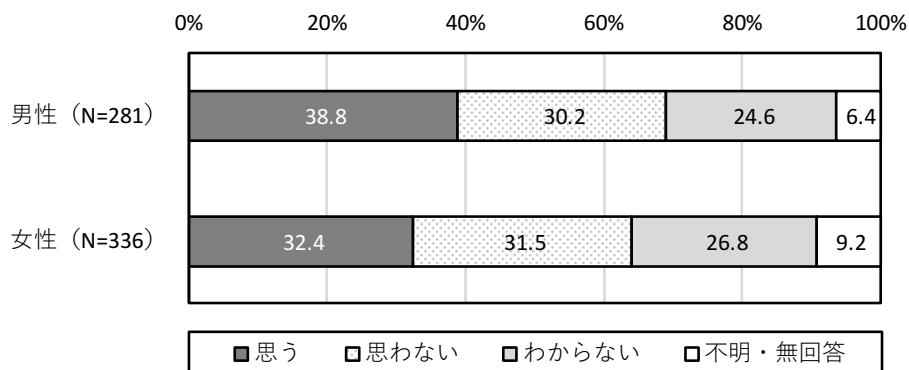
表の濃く塗りつぶした枠は、最も回答が多かったもの。

【男女別クロス集計】

男女とも、「思う」が最も多くなっています。

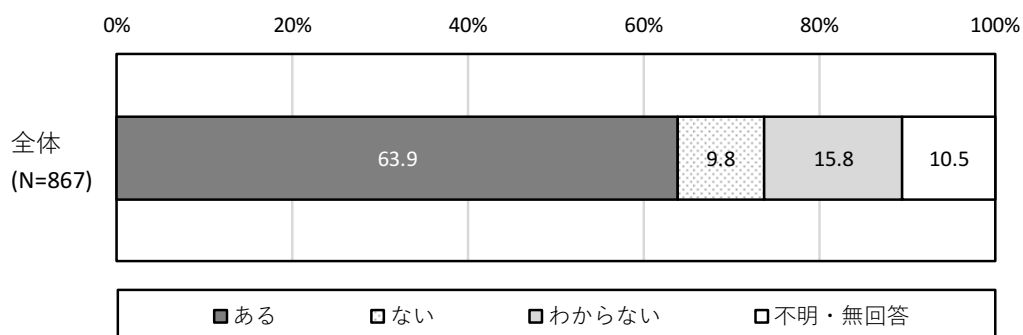
女性より男性のほうが、「思う」の割合が6.4ポイント多くなっています。

女性では、「思う」と「思わない」の割合が比較的、拮抗しています。



■問 14 あなたは、この地域、集落に愛着がありますか。(1つに○)

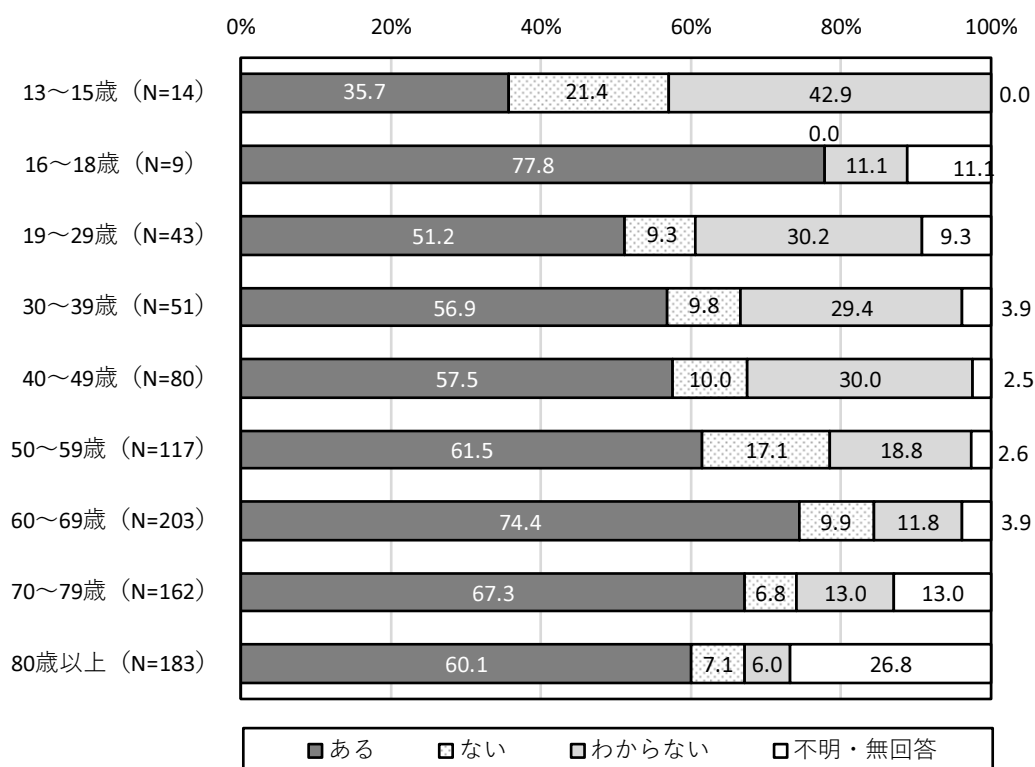
「ある」が63.9%と最も多く、次いで「わからない」が15.8、「ない」が9.8%となっています。



【年齢別クロス集計】

おおむね、年齢層が上がるとともに「ある」の割合が増加し、60～69歳をピークに、そのあと減少に転じています。

「ある」と答えた人の割合は、13～15歳を除くすべての年齢層で、半数を超えています。その中で、16～18歳で「ある」が77.8%と突出して多く、「ない」と答えた人がいなかったことが目を引きます。



【集落別クロス集計】

小城を除くすべての集落で、「ある」が最も多くなっています。その割合は、ほとんどの集落で半数を超えています。

小城では、「わからない」が最も多く、半数を超えています。

(%)

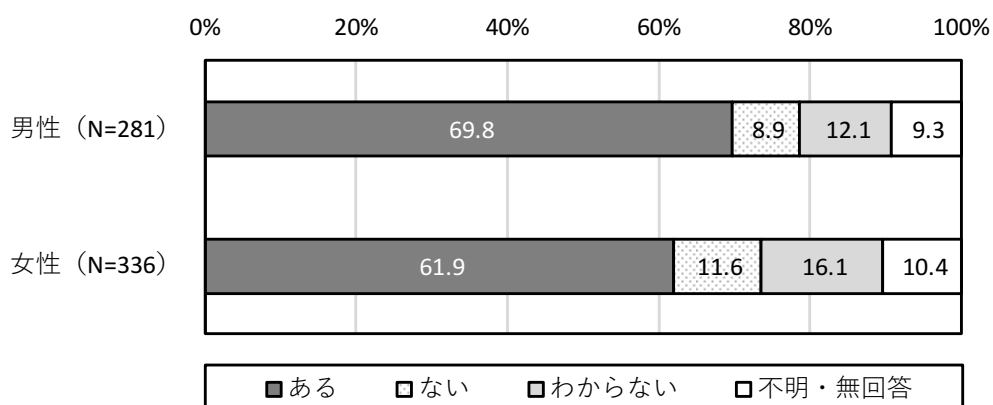
	ある	ない	わからない	不明・無回答
入江 (N=46)	63.0	8.7	13.0	15.2
和佐父 (N=28)	42.9	14.3	21.4	21.4
和田 (N=49)	75.5	8.2	12.2	4.1
長板 (N=113)	73.5	8.0	11.5	7.1
熊波 (N=69)	71.0	8.7	13.0	7.2
祖岡 (N=83)	65.1	4.8	16.9	13.3
丸味 (N=20)	60.0	5.0	30.0	5.0
川会 (N=70)	62.9	4.3	24.3	8.6
高津 (N=87)	54.0	23.0	12.6	10.3
長須 (N=38)	68.4	5.3	10.5	15.8
味取 (N=87)	70.1	4.6	12.6	12.6
原 (N=34)	52.9	11.8	26.5	8.8
長瀬 (N=58)	67.2	13.8	10.3	8.6
山田 (N=61)	54.1	14.8	16.4	14.8
小城 (N=11)	36.4	9.1	54.5	0.0
境 (N=13)	46.2	15.4	23.1	15.4

表の濃く塗りつぶした枠は、最も回答が多かったもの。

【男女別クロス集計】

男女ともに、「ある」が最も多く、その割合は男性で7割近く、女性で6割近くとなっています。

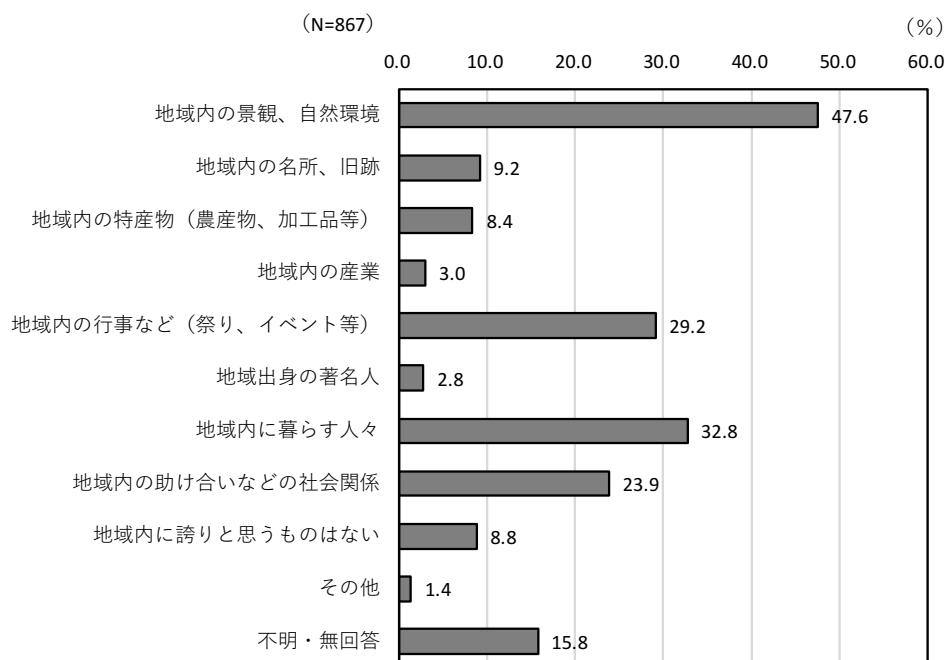
女性より男性のほうが、「思う」の割合が7.9ポイント多くなっています。



■問 15 地域、集落内であなたが誇りに思っているものは何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

「地域内の景観、自然環境」が 47.6%と最も多く、次いで「地域内に暮らす人々」が 32.8%、「地域内の行事など（祭り、イベント等）」が 29.2%となっています。



【年齢別クロス集計】

すべての年齢層で、「地域内の景観、自然環境」が最も多くなっています。その割合は、70～79歳と80歳以上を除いて、半数を超えています。

(%)

	地域内の景観、自然環境	地域内の名所、旧跡	地域内の特産物（農産物、加工品等）	地域内の産業	地域内の行事など（祭り、イベント等）	地域出身の著名人	地域内に暮らす人々	地域内の助け合いなどの社会関係	地域内に誇りと思うものはない	その他	不明・無回答
13～15歳 (N=14)	57.1	28.6	21.4	0.0	28.6	0.0	21.4	14.3	14.3	0.0	7.1
16～18歳 (N=9)	55.6	11.1	22.2	0.0	22.2	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	22.2
19～29歳 (N=43)	58.1	4.7	7.0	0.0	16.3	0.0	27.9	16.3	11.6	4.7	16.3
30～39歳 (N=51)	56.9	13.7	17.6	7.8	23.5	3.9	27.5	17.6	9.8	0.0	9.8
40～49歳 (N=80)	56.3	7.5	16.3	6.3	15.0	2.5	26.3	23.8	11.3	2.5	6.3
50～59歳 (N=117)	53.0	8.5	7.7	3.4	27.4	2.6	28.2	33.3	9.4	1.7	7.7
60～69歳 (N=203)	54.7	10.3	6.4	3.0	37.4	3.4	42.4	26.1	8.4	1.0	8.9
70～79歳 (N=162)	39.5	11.7	8.0	3.1	35.2	3.7	35.8	24.1	8.6	1.2	18.5
80歳以上 (N=183)	33.9	5.5	4.4	1.1	27.9	2.2	30.6	21.3	6.6	0.5	32.2

表の濃く塗りつぶした枠は、最も回答が多かったもの。
薄く塗りつぶした枠は、2番目に回答が多かったもの。

【集落別クロス集計】

入江、長板、丸味を除くすべての集落で、「地域内の景観、自然環境」が最も多くなっています。

入江では「地域内に暮らす人々」が、長板では「地域内の特産物（農産物、加工品等）」が、丸味では「地域内の産業」と「地域内に誇りと思うものはない」が、それぞれ最も多くなっています。

(%)

	地域内の 景観、自 然環境	地域内の 名所、旧 跡	地域内の 特産物 (農産 物、加工 品等)	地域内の 産業	地域内の 行事など (祭り、 イベント 等)	地域出身 の著名人	地域内に 暮らす 人々	地域内の 助け合い などの社 会関係	地域内に 誇りと思 うものは ない	その他	不明・無 回答
入江 (N=46)	15.2	15.2	0.0	4.3	10.9	4.3	23.9	17.4	13.0	2.2	34.8
和佐父 (N=28)	46.4	7.1	14.3	10.7	3.6	0.0	25.0	17.9	14.3	0.0	21.4
和田 (N=49)	69.4	6.1	10.2	2.0	49.0	2.0	36.7	28.6	4.1	2.0	2.0
長板 (N=113)	49.6	6.2	8.8	1.8	60.2	0.0	39.8	25.7	4.4	0.0	10.6
熊波 (N=69)	62.3	7.2	10.1	4.3	43.5	0.0	52.2	33.3	5.8	1.4	10.1
祖岡 (N=83)	67.5	22.9	19.3	3.6	21.7	1.2	32.5	26.5	3.6	0.0	10.8
丸味 (N=20)	25.0	5.0	20.0	30.0	0.0	5.0	20.0	10.0	30.0	5.0	20.0
川会 (N=70)	45.7	24.3	10.0	0.0	37.1	25.7	32.9	18.6	1.4	1.4	10.0
高津 (N=87)	32.2	0.0	2.3	1.1	18.4	0.0	23.0	14.9	17.2	2.3	21.8
長須 (N=38)	57.9	0.0	7.9	5.3	26.3	0.0	36.8	31.6	2.6	0.0	18.4
味取 (N=87)	37.9	5.7	4.6	0.0	28.7	0.0	34.5	31.0	5.7	3.4	18.4
原 (N=34)	44.1	5.9	5.9	0.0	17.6	0.0	38.2	17.6	11.8	0.0	14.7
長瀬 (N=58)	48.3	10.3	10.3	3.4	20.7	0.0	25.9	24.1	15.5	1.7	15.5
山田 (N=61)	47.5	4.9	3.3	0.0	16.4	0.0	24.6	27.9	11.5	1.6	23.0
小城 (N=11)	27.3	9.1	9.1	0.0	9.1	9.1	18.2	18.2	27.3	0.0	18.2
境 (N=13)	69.2	15.4	0.0	7.7	7.7	0.0	30.8	0.0	7.7	0.0	23.1

表の濃く塗りつぶした枠は、最も回答が多かったもの。
薄く塗りつぶした枠は、2番目に回答が多かったもの。

【男女別クロス集計】

男女とも、「地域内の景観、自然環境」が最も多くなっています。

2番目に回答が多かったものは、男女とも、「地域内に暮らす人々」となっています。

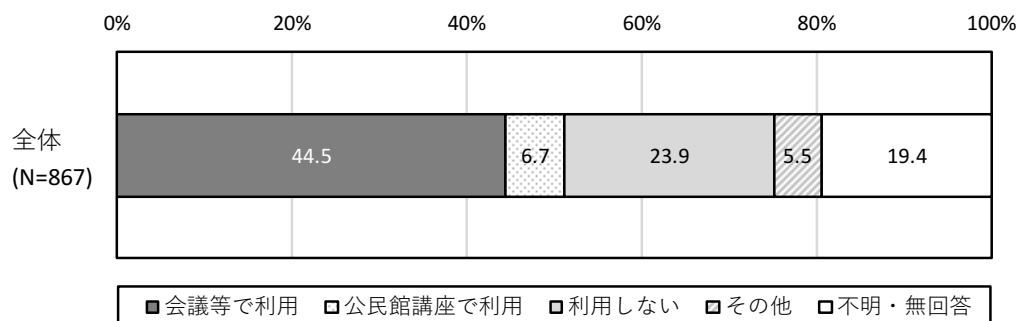
(%)

	地域内の 景観、自 然環境	地域内の 名所、旧 跡	地域内の 特産物 (農産 物、加工 品等)	地域内の 産業	地域内の 行事など (祭り、 イベント 等)	地域出身 の著名人	地域内に 暮らす 人々	地域内の 助け合い などの社 会関係	地域内に 誇りと思 うものは ない	その他	不明・無 回答
男性 (N=281)	50.9	8.5	8.2	3.6	29.5	2.5	38.1	23.8	8.9	1.8	12.8
女性 (N=336)	47.0	9.5	8.6	2.1	28.6	2.1	33.0	23.2	9.2	0.9	17.9

表の濃く塗りつぶした枠は、最も回答が多かったもの。
薄く塗りつぶした枠は、2番目に回答が多かったもの。

■問 16 あなたは、地区公民館をどのような目的で利用しますか。（1つに○）

「会議等で利用」が44.5%と最も多く、次いで「利用しない」が23.9%、「公民館講座で利用」が6.7%となっています。

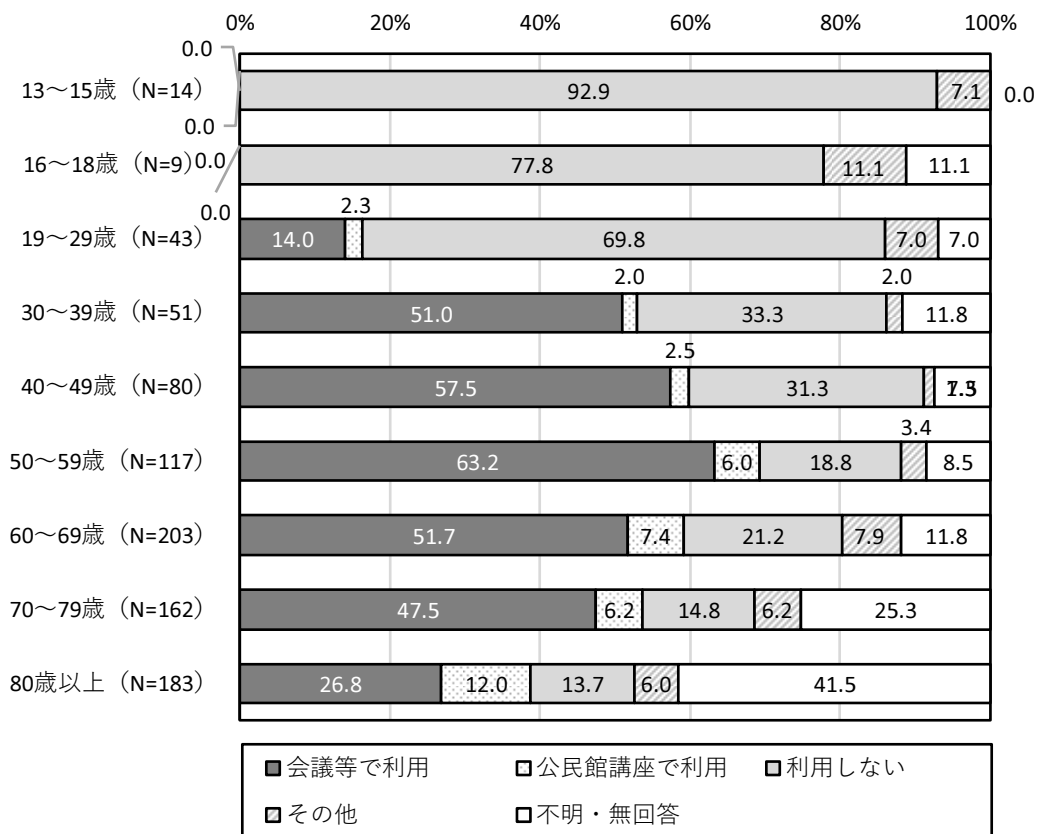


【年齢別クロス集計】

13～15歳と16～18歳では、「利用しない」が92.9%と大半を占めています。

19～29歳以降では、年齢層が上がるとともに「会議等で利用」が増加し、50～59歳をピークに減少に転じています。

「公民館講座で利用」と答えた人が最も多かったのは80歳以上で、その割合は12.0%となっています。



【集落別クロス集計】

高津を除くすべての集落で、「会議等で利用」が最も多くなっています。和佐父では、「利用もしない」も同率で最も多くなっています。

高津では、「利用しない」が最も多くなっています。

(%)

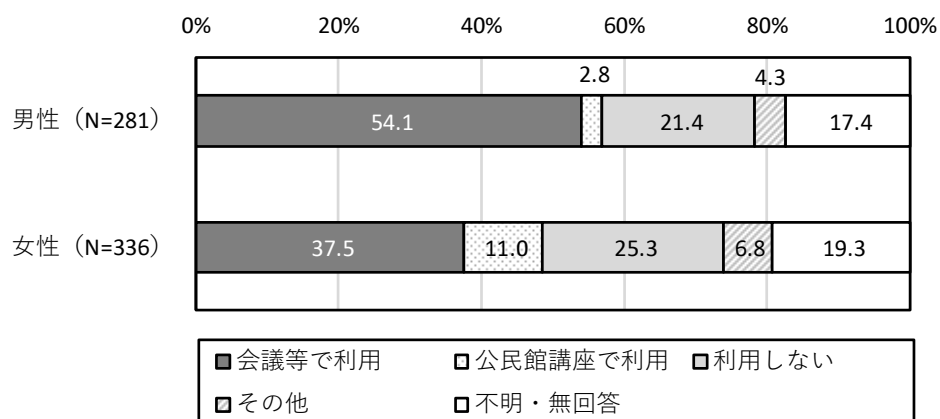
	会議等で利用	公民館講座で利用	利用しない	その他	不明・無回答
入江 (N=46)	37.0	13.0	26.1	4.3	19.6
和佐父 (N=28)	32.1	0.0	32.1	3.6	32.1
和田 (N=49)	40.8	2.0	28.6	2.0	26.5
長板 (N=113)	54.0	4.4	21.2	4.4	15.9
熊波 (N=69)	43.5	8.7	15.9	8.7	23.2
祖岡 (N=83)	45.8	4.8	20.5	10.8	18.1
丸味 (N=20)	45.0	0.0	35.0	10.0	10.0
川会 (N=70)	32.9	17.1	27.1	10.0	12.9
高津 (N=87)	28.7	3.4	44.8	5.7	17.2
長須 (N=38)	55.3	7.9	13.2	2.6	21.1
味取 (N=87)	44.8	5.7	21.8	3.4	24.1
原 (N=34)	52.9	2.9	26.5	5.9	11.8
長瀬 (N=58)	48.3	13.8	19.0	1.7	17.2
山田 (N=61)	52.5	6.6	13.1	3.3	24.6
小城 (N=11)	81.8	0.0	18.2	0.0	0.0
境 (N=13)	53.8	0.0	7.7	7.7	30.8

表の濃く塗りつぶした枠は、最も回答が多かったもの。
薄く塗りつぶした枠は、2番目に回答が多かったもの。

【年齢別クロス集計】

男女とも「会議等で利用」が最も多く、次いで「利用しない」が多くなっています。

女性より男性のほうが、「会議等で利用」の割合が 16.6 ポイント多くなっています。逆に「公民館講座で利用」と答えた人は、女性が男性を 4.2 ポイント上回っています。



■問 17 あなたは、地区公民館に実施して欲しい講座や活動はありますか。(記述式)

講座名／活動名		具体的な内容
スポーツ／健康づくり	健康体操（8件）	年齢を重ねると体のあらゆる部分に支障がきたすため少しでもそれを緩和できるような体操教室。
	ヨガ、ストレッチ（5件）	筋トレとストレッチ、プチ不調改善、ヨガ。
	囲碁ボール（3件）	囲碁ボールを行う。
	ゲートボール（2件）	
	筋トレ講座	トレーニングルームで筋肉トレーニング。筋トレマシーンを置いてほしい。
	エアロビ教室	エアロビクスで健康づくり。
	高齢者ラジオ体操	高齢者の体力づくりで集まってラジオ体操をする。
	アウトドア講座	キャンプ、バーベキュー、山、川で遊ぶ。
	山登り	初級から始める。但馬内の山。
ものづくり	陶芸教室（2件）	茶碗、ぐい呑み、皿などをつくる。
	紙芝居づくり	地域に伝わる昔話を紙芝居にしてほしい。
	P-P カバン	P Pバンドでつくるカバンなど。
	特産品づくり講座	
	なれずしのづくり方	ハタハタのなれずしのづくり方。
	手づくり小物など	タンスに眠っている着物などの利用（着物のリフォーム）。
	フラワーアレンジメント	
文化・芸術	園芸（6件）	花や野菜もののづくり方。害虫、病気とその対策や仕立て方。庭木や果樹の剪定の仕方など。
	書道、習字、実用書道（5件）	習字、ペン習字、筆ペン。
	料理教室（5件）	おばあちゃんたちの手づくり料理。地元食材を使った料理。高齢者向けの料理教室。男性向けの料理教室など。
	生け花（4件）	年4回位、四季の花を生ける。
	カラオケ（3件）	カラオケを歌う。
	お茶	
	写真	美しい景観を写す。
	バンド教室	フォークソングなどをグループで演奏する。
	歌声喫茶	お茶をしながら歌いつつコミュニケーション。
習いごと	パソコン・スマホ教室（3件）	高齢者向けのパソコン、スマートフォン教室。
	マージャン教室（2件）	脳の活性化のために楽しむ。賭けることはしない。会話をしながら人とのつながりを深めていく。
	農作物加工講座	季節ごとの農作物の加工。（例：、さんしょ煮、干し柿、フキの煮物、たくあん漬）

講座名／活動名		具体的な内容
学習／交流活動	老人会	月に1回位はみんなが参加して楽しくやりたい。学習会などを行い健康生活について学びたい。
	説法	
	写経	
	何でもしてみよう	月に1、2回集まり何かを教えたり、教わったりする。
	いきいきサロン	料理講習、医療講習。
	射添地域の資源をいかす	資源の発見・探検、地域の持ち味を売り物に。
	安心して暮らせる村づくり	少人数による話し合い（10人位）現在、過去、歴史。（集落全員8人から10人づつ分けて話し合う）
	レクリエーション	地区のイベント。
	リサイクル交換所	使える不用品の物々交換所。
	川、山など自然を学ぶ活動	子どもと川虫の講座に参加してとても良かった。もっと多くの人に知ってほしい。
	歴史、文化、伝承講座	徹底した伝統の究明と再現。
	山林活用、境界を調べる	山林の境界に意識が高いわりに放置されている。竹炭づくり、薪で露天風呂などを楽しみながら資源を利用して関心を高める。
	研修的講座	健康、農業など。
	介護講座	介護に関すること。
	自由喫茶	月に1回みんなでお菓子やおにぎりを持って集まりたい。
	懇親会	2、3ヶ月に1回、各家庭で食べ物または公民館で料理をつくってカラオケなどで楽しむ。
	趣味・教養	料理や書道、華道などを教わる場。
	子ども、高齢者との交流会	ミニグラウンドゴルフ、ミニ運動会。
	区内・村の歴史	何年頃、どこから、誰が住みはじめ、村の家並みはこのようであったなど。
	高齢者喫茶店	高齢者が集まってお茶会、食事など。
	自由開放	月1、2回は自由に開放してほしい。冷暖房があり、ほんの少しの時間に自由にくつろげる部屋の提供。

■問 18 あなたが抱く、射添地区の「イメージ」をわかりやすく表現すると、どのようなものになりますか？（記述式）

※主なもの。年齢または性別の＜＞は不明（調査票に記載がなかった）部分、

肯定的な表現（年齢／性別）	
声かけと笑顔の里（50 代／男性）	いどり豊かな安らぎの里（50 代／女性）
静かな里（80 歳以上／男性）	ホテルが飛びかう里（60 代／女性）
老いも若きもつながる 人の笑顔が幸せな安らぎのまち（80 歳以上／女性）	高齢者中心の村（現在）、老後も安心して暮らせる町（将来）（60 代／女性）
みんな仲間（40 代／女性）	自然豊かなほっこりできる里（60 代／女性）
朝夕のあいさつができる里（80 歳以上／-）	緑と水から何かが生まれる里（50 代／女性）
明るいあいさつのできる地区（60 代／女性）	誠実でやさしさあふれる里（60 代／男性）
自然豊かなのどかな町（19-29 歳／-）	人が集まる輪の里（60 代／女性）
白秋のそよ風（80 歳以上／男性）	助け合いと支え合いの里（19-29 歳／女性）
ほがらか（40 代／-）	静かに時を刻んでいる（50 代／-）
笑顔と元気の里（13-15 歳／-）	ホテルと星が降る里（60 代／男性）
自然豊かで人と人との関係が濃厚で、あたたかみのある人が多い地区（40 代／-）	穏やかな人が暮らす山里（60 代／男性）
みどりいっぱい、やさしさいっぱいステキ！（70 代／-）	粘り強く地域を守る人々が 和気あいあいと暮らす地域（60 代／男性）
清流のある山と川、大自然に恵まれた里、棚田からの景観（70 歳代／-）	自然いっぱい長寿の里（19-29 歳／女性）
人がつながる笑顔の里（80 歳以上／女性）	時、静かに流れる里（50 代／-）
大自然や食べ物もおいしい自慢できる里（40 代／女性）	湧き水のふもと笑顔で助け合う里（80 歳以上／男性）
助け合いと安らぎの里（70 代／女性）	囲碁の里（80 歳以上／男性）
ゆったり時間が流れる憩いの場（19-29 歳／女性）	情緒あふれるふれあいの里（60 代／-）
せせらぎと穏やかな笑顔の里（60 代／女性）	人と人が寄り添う里（60 代／女性）
自然とやさしい笑顔（50 代／男性）	清流におよぐ鮎の里（70 代／男性）
穏やかな心で自然と向き合える里（50 代／女性）	清流の里 矢田川（50 代／男性）
山と川の自然に囲まれた地区（50 代／女性）	笑顔あふれる伝統芸能の里（19-29 歳／-）
ささえ合う、わかち合ういそう（60 代／女性）	否定的な表現
山と川と牛の里（30 代／男性）	高齢者が多い地域（50 代／-）
静かで緑深い矢田川のせせらぎが心をなぐさめてくれる（80 歳以上／女性）	活気のない里（50 代／女性）
思いやりと辛抱強さ（60 代／男性）	無意味に水や空気がきれいなところ 情緒、風情とは無縁の殺風景さ（30 代／男性）
老いも若きも人を思いやる里（60 代／女性）	害獣に追われる里（40 代／-）
	古い考えを捨てられず、若者定住が難しい地域（-／女性）

Ⅲ 自由回答

■地域での暮らしや地域の活動、事業などについて、感じていることやご意見、ご提案等をご自由にお書きください。（記述式）

※原則として原文のまま掲載していますが、読みやすくするために多少、文章に手を入れている場合があります。

＜－＞は不明（調査票に記載がなかった）部分

内容	年齢	性別
人も若い人も少なく、空き家が非常に増えて、さびしさを感じてしまう。元気な射添地区になってほしい。	50代	女性
村内を歩いても高齢者ばかりが多くなり、子どもも少なく、子どもたちの遊ぶ可愛い声も聞こえないような村になり、寂しい限りである。しかし高齢者にはとても大事にしてもらえるので感謝をしながら暮らしている。	80歳以上	女性
村の中では誰もが、何かをしてくれたら参加する気持ちの人たちが多いようである。「地域コミュニティ設立」とあるが、例えば折り紙を折る、荷造りひもでかごをつくる、ハーモニカの練習などを希望する人などがいれば、できる・できないは別として考慮してくれるものなのか知りたい。	70代	女性
みんなの意識や関心をさらに高めていかなければならないと思う。そのためには責任を与えていかなければならない。何かしらの役を多くの人に与え、基盤を強くし他人事も自分の事になるようにしていかなければならないと思う。過疎化以上に高齢化が心配である。	40代	男性
通院しやすいように町民バスを運行させてほしい。	40代	-
水害などによる落石や土砂の田畑への被害や土地の境界について、早く対策を行ってほしい。人口が少なくなってきたり暮らしにくくなっているため、今以上にあたたかい言葉や行動を困っている人に向けて行ってほしい。	80歳以上	女性
自然が壊れている。柵の中で人間は農業をして野生動物は保護されて野放しでの共生は難しいと思う。近年の山は草木がなくなり砂漠化している。動物の所為だと思う。野生動物との共生を皆で考えていかないと大変なことになると思う。 川の生き物を真剣に調べてほしい。入江の川には今年、一匹の鮎もいない。鮎どころか外来魚もいない。鵜や鷺が原因だと言われているが、川にアオミドロが多く、蛍も見かけなくなった。下水道が関係していると思う。花が咲いても虫が飛んでいないため人工交配しないと咲かない。 長須の紙すきのような伝統を大、学の先生を呼んで研究材料にするのは疑問に思う。自分たちで将来のことを考えるべきだと思う。	80歳以上	男性
老人会と子ども会のつながりを高めたいと願い、7月下旬に交流会をもっている。ささやかでも、どこかで手をあげ続けることが1つでもあれば良いと思う。小さい頃の思い出として心の片隅に残してくれれば良いと思う。 射添の集落を見てまわる会を企画している。1回につき4集落をまわり射添の良さを発見し、射添への思いやりを芽生えさせようと思う。	80歳以上	-

内容	年齢	性別
非常に厳しい地区の現状（超少子、超高齢化、人口減、空き家、空き地、耕作放棄地の増加など）を思うと5年先、10年先の地区や区そのものの維持が無理だと日々実感する。 現在、残っている区内の若い人も本当に少なくなり、いろいろな負担がその人たちにのしかかっている現状は、全員が根本的に考え直さねばならないと考える。「昔のまま、今まで通り」ではダメである。これは地区だけの問題ではなく、町全体として取り組まなければならないことである。 私たち高齢者にとっては買い物や病院への移動手段がないと、ここで生きていくことはできない。少なくなった子どもたちのことを思うと、子育て、通学、子ども同士の交流など不安がつのる。	70代	女性
高齢者の生きがいとして何か楽しみながら取り組める特産品があれば良いと思う。 林業振興のために森林資源の有効活用や公益機能を保全するための森林整備、林道の舗装が最重要である。 過疎化に伴う空き家に対する指導や勧告などを行い、安全で安心できる町づくりを推進してほしい。 町道の急傾斜地崩壊対策事業を早急に実現させてほしい。 シカやイノシシの捕獲駆除や有害鳥獣対策を、引き続き重要対策として推進してほしい。	80歳以上	-
都会に出たい。	13～15歳	女性
和田に住んで良かった。これからも住み続けたいと思う。	80歳以上	女性
このような面倒なアンケートに記入すること自体が負担である。住民の直の声が本当に必要で反映されているのか疑問に思う。 世間は高齢者ドライバーの事故が問題視されているが、交通の利便性が悪く、外出の手立てがなければ生活できない。近所の人から親切にしてもらっている高齢者はいるとは思いますが、そうでない人たちはどうしようもない。高齢者が免許を返納しても、買い物や病院に行けるようなシステムを整えてほしい。	-	-
事業などがマンネリ化してきている。ただ事業をこなしているように感じる。	60代	男性
税金の無駄づかいである。	60代	男性
高齢者になったため、少しでも地域のために活動をしたい。草取りやそうじなど。月に1回ぐらい集まって話し合いたい。体操をする。うたを歌う。お話を聞く。食事を一緒にする。	80歳以上	女性
ゴミの問題が気になる。学校の資源回収が将来的に困難になるため他の方法を考えてほしい。例えばダンボール、新聞などの町回収の回数を増やす、地域局の駐車場などに常設の回収場所をつくるなど。生ゴミ（燃えるゴミ）の水分を少なくする方法を考える。特にスイカの皮などを出すときは気になる。水分をしぼる機械の開発など。イノシシ、クマなどが出るため昔のようにコンポストも使えない。	60代	女性

内容	年齢	性別
毎年行われている事業など、本当に続けていく意味や価値があるのか改めて見つめなおしてほしい。マイナス要素は思い切って断つことも大事だと思う。	70代	-
射添地区に限ったことではないが、まず村岡に高速道路を建設してほしい。このままでは過疎化が進む一方である。イベントなどを計画しても交通が不便であり、香美町といっても優遇されているのは香住のみで理不尽である。害獣被害も拡大しつつある。個人個人の対応ではなく、全地域で考えなければならぬと思う。	40代	-
生まれて高校卒業までの18年間、結婚して射添に帰って来てからも28年間、合計46年間この射添地区で生活している。のんびりしていて人々もあたたかく自然にも恵まれ、私たちが暮らすには何不自由もない。しかし子や孫に射添に住み続けるようには言えない。町に将来性がないからである。子どもの数も年々少なくなり、活気がなく何をしても寂しい感じがする。盆、正月、5月の連休に帰ってくる子や孫たちを快く迎えることが私たちの大事な役目だと思っている。	50代	女性
地域の人の助け合いの姿に心があたたまるといえる。(ひとり暮らしの高齢者に声をかけたり、自分の家以外の場所も自発的に除雪をしてくれる。また、気さくに声をかけてくれる。)	30代	女性
射添地区の新しいコミュニティづくりは大変重要なことだと感じる。となりの新温泉町湯区周辺と比べても射添地区の特性は30件ほどの家、集落が飛び飛びで点在している。各集落単位で以前は成り立っていたことも、人口減少が進んでいる今では、各集落単位だけではなく、射添地区全体として考えることが重要だと思う。射添地区が助け合いの輪や支え合いの輪がひろがり、さらに素敵な地域になることを願っている。各地域ではなく、射添地区全体で高齢者などをサポートできる形にできれば良いと思う。その中で協力できることがあればしたい。	30代	男性
高齢者が困惑に陥ることのないような地域づくり。 助け合い運動の展開。1人の高齢者に対し、3～4人の担当を指定し、声掛けや差し入れ、買い物時の誘いあい、病院の送迎の支援などを共助する。 乗合タクシーの新設。(行政で対応) 月に1、2回程度の居酒屋の開設。公会堂で行う。	70代	男性
国道9号線(特に村岡区長板付近)が一番デコボコが激しく感じられる。整備をすることは聞いているが、進行状況が知りたい。 今、農業に従事している人たちの10年後を想像すると心配である。一帯が荒れ果て藪になっているように思う。せめて自分の土地管理を徹底してほしいと思う。 免許証を返納した時、どこへも行けないため自家用車にかわる交通手段を考えてほしい。	60代	女性
問が多く、しぼりきれない。	80歳以上	-
車がないと、どこへも行けないため、交通手段を考えてほしい。	40代	-

内容	年齢	性別
地域の行事に参加できない人を悪く言う風潮があるため、仕方なく参加しているが、正直負担に感じるもののほうが多い。婦人会をやめて、自治体に女性も同じように参加するようになれば良いと思う。 未だに女は給仕をする者というスタンスで、あらゆる行事が計画されている。今と同じだけ行事がある場合、夫がいなくなった時は参加できる気がしない。すべて出席しないといけないのなら出て行くしかないという気持ちになる。 住んでいる者にアンケートをするよりは、出て行った者になぜ出て行くのか聞いてみたほうが良いと思う。射添だけではなく村岡全体に言えることだが、公務員しかまともに暮らせない町のように思う。民間であっても普通に暮らせる町になればと思う。 休日がないほど忙しいため、これ以上、行事を増やさないでほしい。	-	女性
町がもう少し真剣に鳥獣被害対策をすること。 安心して生活のできるような企業誘致をしなくては、若者はこの地に残らない。 現在この地に残っている若者は公務員中心で、集落の農業に対して全く関心がない。	70代	-
射添地区芸踊りは他地区にない伝統と良さを持っているため継続してほしい。また踊り手の少ない地区は近隣区と合流、交流で協力し合うなど工夫して継続してほしい。 通学路に防犯カメラを設置してほしい。保護者が当番制で引率しているが、このような実態を射添地区香美町の人にも知ってもらい、より安全対策を考えてほしい。子どもの声が響き渡ると地区の活性につながり、事業やまちづくりが成り立つと思う。	60代	女性
小学生の低学年と高学年では終業時刻が異なり、各家庭が迎えに行っている。毎日の迎えが負担になるためバス通学にしてほしい。他の地区では一部中学校のスクールバスに乗るなどの規則に変わったが、長板地区では実施されていないため子育てが大変である。射添の活性化のためにも町と折衝して見直しをしてほしい。	70代	男性
主産業である農業の項目がない。サル、シカ、クマなど農家にとっては最大の害獣である。廃農に直面している。シカ、クマは全集落に被害を及ぼしている。特にサルは16集落中7集落が被害を受けている。行政と連絡をとり対策を考えてほしい。	80歳以上	-
サルの対策を講じてほしい。	70代	-
空き地など（廃田）に繁殖牛などを放牧してほしい。早朝など野生動物が普通にいるため人里との境が必要になっていると深く感じる。土地管理の高齢化が進んでいるため、土地を貸す斡旋をしてくれる人がいればありがたいと感じる。	30代	男性
人口減少や戸数も減少し、高齢化も進む中、地区の行事、農業、生活などがどうなっていくのか不安に感じている。高齢者の病院受診や買い物などの外出支援や生活の中で困ったことを気軽に頼める仕組みの構築が必要だと思う。	60代	女性

内容	年齢	性別
現状維持。	60代	男性
生まれ育った射添の地は私にとって一番好きな地域である。今日まで地域の人とお互い寄り添いながら生活ができたことに感謝している。みんなが土地の尊さを感じるのが一番大切なことだと思う。昔と違い田園が荒れているのを見るとさびしい。子どもたちが都会で生活することについて何も言うことはないが、もったいないと思う。若い人たちの力で山川の美しい射添の地を守ってほしいと思う。	80歳以上	女性
元気で長生きしたいため、地区内で健康体操を定期的に行ってほしい。	60代	女性
鳥獣対策を徹底して行ってほしい。(自分たちが檻の中に追い込まれているようである)。作物をつくる楽しみもなくなりかねない。	70代	女性
子どもが少ないため、1世帯あたりの学校行事やイベントの負担が大きく忙しい家庭も多い。消防団や婦人会などの地域活動が今より増えると自分たちの時間の余裕や子育ての時間を犠牲にしなければならず、人口減少に伴う負担増が不安な部分である。 子育て環境は、地元を知る機会がとても多く、小さいうちから自分の育った環境に愛着が持てる経験ができるため、今後も続けてほしい。小学校統合の話もあるが、統合してしまうと、このような経験や地区との接点が少なくなる。学習面での競争について心配する人もいるが、今のチャレンジプランで十分おこなえていると感じる。他校の児童に自分の地区を紹介する授業もあり、ふるさとに愛着を持ち将来この地区に住みたいと思ってもらうためにも、小学校統合は進めてほしくない。 人口減少の不安について移住希望者の受け入れを町と連携して積極的に進めてほしい。まずは射添地区について知らないことが多いため、良く知ってもらうことだと思う。長須の紙すきのような取り組みが他の地区にもあれば良いと思う。	30代	女性
サルによる作物被害に困っている。	80歳以上	女性
この地域では人口減少や高齢化が進んでいく中、農地をなんとか守っていかうとしてがんばって耕作している。しかし鳥獣被害もだんだんと激しくなり、畑などではまともに収穫ができない状態が続いている。町ではサルの位置を知らせる放送もあるが、それは自分で追い払うようにすべきと言っているのと同じである。高齢者には無理なことであり、もう少し踏み込んだ取り組みを行ってほしい。このままでは耕作意欲がなくなってしまう。 また最近、高齢者による運転事故が問題として取り上げられ免許返納が呼びかけられている。しかし、この地域は過疎地であり、路線バスもなくなり本数が極端に少なく満足な利用ができない。病院や公共施設に行くにはどうしても自家用車が必要である。農業に関しても車がなければ材料や農機具が運べず農作業ができない。またこのような依頼をすることもできない。そのため車を手放すことはできない。	60代	女性
鳥獣の個数を減らす対策がしてほしい。	70代	男性
マンネリ化した祭りなどのイベントが多い。関心をもってもらうような新たな意見が必要である。	19～29歳	-

内容	年齢	性別
長年住んでいるが中途半端な印象がある。穏やかであるが活気がない。何か活気のあるようなことをひとりで考えても思いつかない。リーダーのもと、皆の意見を聞きながら行動を起こしていかなければならないと思う。この新しいコミュニティ設立準備委員会に期待している。	70代	女性
イノシシ、サル、シカなどの被害が多く困っている。施錠をして暮らすのも大変である。駆除などは動物保護の点から難しいのか知りたい。	70代	女性
移住者を受け入れようとしている話を聞くが、移住者を募る目的がはっきりしていないと思う。移住者増で税収を上げるのか、活気のある地域づくりを目指すのであれば、どのような人なのか人物像にもよると思う。 都会のように便利で人が多く住む町にしたいのか、それとも地域を大切に思う人が戻ってくれるふるさとにするのかだと思う。都会から人が多く移住してきても田畑や山林が荒れていけば田舎に住んでいる本質的な意味はないと思う。農業や畜産で生活ができ、安心して暮らせる里にしなければ、広い日本の中で選ばれる場所にならないと思う。竹細工や色々なものをつくって生産性のある人が集まりやすい地域にすることで長い目で見て地域が守られると思う。交流によって地域を盛り上げていくだけでは長続きはせず、交流事業が増えれば日常生活が大変になると思う。	40代	-
県外に実家の母がひとり暮らしをしており、将来的には移り住むことを考えているため、まちづくりについて特に考えはない。	50代	女性
今のままで良い。	70代	-
射添を考える会の事業を継承し、内容を工夫しながら活性化を図る。 今後、自動車を運転できない高齢者が増加することから、病院や買い物などの移動手段が必要になる。「福祉タクシー」のような活動をしてほしい。	60代	男性
射添地区は矢田川にそって集落が点在しており、それぞれの集落まで時間がかかり歩いて行けない距離にある。そのため個々の集落が孤立化しているイメージがある。この集落を全体でまとめるには、各種行事への参加をもっと促すような関わりが必要だと思う。例えば矢田川まつりにある程度の要員と交通手段のサービスをする。運動会にもっと参加するような形にする。子どもが少なくなれば参加するのが悪いような気がするからである。盆踊り大会は何かを工夫して伝統芸能を継続できるように参加者を増やす。	60代	女性
冬の除雪を地区内でできていても、他地区が完璧でなければ移動が難しい。買い物、仕事とも皆が広範囲に移動しているため但馬全域が除雪に力を入れてほしい。 サルは出るものとして、サルの放送を考え直す。子どもが遊ぶ公園が高い所にあり、大人の目が届かない。結局だれも遊んでいない。高齢者の散歩コースにも入れない。 公民館を常時、区民が入りお茶を飲んだり話したりできるような使い方にする。	50代	-
高齢者の交通手段がさらに楽になるような方法を考えてほしい。結婚問題も考えてほしい。	50代	-
村の農業に関することで疲れる。つきあいで農業に関わることはつらい。	60代	男性

内容	年齢	性別
一部の人に負担が大きくならないように地域全体の課題として取り組んでほしい。若い人もすべてが消防、青年部事業に参加しているわけではないため、それ以外の人たちにも積極的に参加を呼び掛けてほしい。	19～29 歳	-
若者がさらに定着できるようにしてほしい。今のままでは不安でならない。何よりも子どもを増やすことを第一に考えるべきである。	60 代	女性
若い人が住みたいと思う地域を目指してほしい。	50 代	男性
道路の草刈りなど年に何回もしてほしい。 木が茂って暗い。 街灯がない。もっと増やすべき。	60 代	女性
閉鎖的で交流できる環境が少ない。実態でも意識の面でも。自然を取り入れた工夫ができれば良いと思う。	60 代	男性
集落を維持するだけで大変である。総仕事も今後ますます大変になり、区の行事も再検討が必要だと思う。できるようなやり方を早くしないと区民が困る。射添地区のコミュニティを考える前に区の現状についての話し合いが重要だと思う。	60 代	男性
大変な取り組みだと思うが、住民有志に検討といかに実践するかが問題だと思う。	80 歳以上	男性
若い人が村に残れるように町営の会社をおこし、働くところを与えてほしい。これからの人口が少し心配である。	-	-
少しでも獣対策を行ってほしい。	80 歳以上	-
アンケートの結果を楽しみにしている。	70 代	男性
子どもが減り、集落の人口もどんどん減少していく中で、地域の人たちが協力しあい様々な活動をしていることに感心をしている。しかし 10 年後のことを考えると不安である。ここに住みたくても住めなくなると思う。人口を増やすためにも、若い人が働ける環境づくりや高齢者が安心して暮らせるにはどうすれば良いのかを真剣に考えていくことが大切である。射添地区のまちづくりに期待している。	60 代	男性
利用していない土地を活かしてほしい。	80 歳以上	女性
高齢者が車を運転できなくなればバスを利用しなくてはならず、思うような時間にいけないため困る。送迎バスや電話で呼び出し送迎してもらえるようにならなければ、若い人と一緒に住んでいない人は特に困ってしまう。社協など、みんなで一緒にいけるようにするなどしてほしい。	80 歳以上	女性
町民バスがあり便利になったが、急用の場合、村岡にタクシーがあればさらに便利になる。 各集落でも高齢者のひとり暮らしが多くなっている。急に施設に入れない場合、集落の空き家を借りて利用すれば良いと思う。	80 歳以上	男性
人口減少・高齢化・社会の変化であらうことの難しい流れの中で「矢田川まつり」「盆踊り会」、各地区の活動などよくしていると思う。さびしい感じではあるが、「今」をというしかない気持ちである。	60 代	男性
空き家の対策。熊波は特に空き家が多い。80 歳以上が多く、若者が少ない。	60 代	女性
若者の職場や集まる場所が少ない。	60 代	男性

内容	年齢	性別
地域でレクリエーション活動を行う。地域に住む人が少なくなっているため空き家を活用する。	60代	男性
射添には知ってほしい（知りたい）、見てほしい（見たい）場所が多くある。相大池周辺、熊波溪谷、小城の集落、和佐父の棚田など行ってみたい場所が多くある。行くことができないため何らかの形で行きたい。 避難訓練は重要である。しかし実際に起こった時に対処できるか不安である。昼間は若者がおらず、誰が誰を避難させるのか具体的に決めてほしい。他地域からの移住には賛成であるが、誰でも良いわけではなく良い人に来てもらいたい。	50代	女性
高齢で足も悪いいため坂道や冬の道がこわくて困っている。手すりをつけてほしい。	80歳以上	-
農林業の盛んな頃の相岡は、農地や林も広く人口も多かったため栄えていたものだったが、時代の流れとは言えここまで農林業が衰退してしまうともう田舎の生きる術はもうないと思う。せめて退職した年金生活者が故郷の自然を楽しみ、のんびりと暮らせることを考えたほうが良いと思う。	80歳以上	男性
配布用のチラシが多すぎる。ほとんど読まないためゴミになっている。放送設備があるのであれば大抵のことは町放送で済ませてほしい。戸別に配布する役も高齢者のため負担になるばかりである。配布物は極力減らしてほしい。	70代	女性
これだけ多くの山に囲まれているのであれば、低山ハイキングコースのように安全に登山が楽しめるとうれしい。蘇武ハイキングも春秋とあるが、資源回収の日や月末で参加できない年もある。 移住してもらうにはハードルが高いと思うが、訪ねてもらうには何かを持っていないといけない。但馬牛を売りにするのであれば、日帰りで肉を買ってもらいバーベキューをする場所を貸し出すようなサービスが必要。インターネットで何でも買える時代であるため、但馬で育った牛肉をここで食べてもらうことに価値がある。 SNSで情報が拡散される時代である。手軽に下道を使い来てくれるツーリング（バイク）の人たちや、テント泊をしながら各地も巡るキャンプツーリングなどの人を対象にしたエリアが多くできれば、次回は家族連れで来てくれると思う。 発想を豊かにして若い人たちの意見を聞くのであれば、スマートフォンでアクセスできるアンケートにしても良いと思う。もちろん紙で書くことを選べるようにするのが前提である。	30代	女性
高齢者のひとり暮らしであるが、長男家族が町内にいるのでとても便利である。毎日、花を育てたり野菜をつくって楽しんでいる。暑い日が続くと水やりをしなければならない。水やりをした後はこれで元気に育つと安心して大変幸せに感じる。この頃はそんな平凡な日は過ごしている。	80歳以上	女性
相岡から熊波間の道路脇の杉の木を切ってほしい。暗くてさびしい道路をもう少し明るくしてほしい。	60代	女性
どこの地でも問題になっているが危険な空き家を何とかしてほしい。	70代	-
道路整備が悪い。	60代	男性

内容	年齢	性別
地域内の美化活動などの共同作業を雨天時などに実施することはしないほしい。(順延するなどする)	70代	男性
最近是不登校または引きこもりの若者など増えてきている。その子どもたちが外へ出れる場所や、そのような状態を知ったうえで働ける場所があれば良いと思う。	40代	女性
まず射添地区の卒業生を流出させないことである。仕事や交通のためにも道路整備拡張に力を入れるべきである。とにかく子どもがいてくれる射添地区にするにはどうすればいいのか考える。良い自然があっても人がいなくてはどうしようもないと思う。	60代	男性
自然を大切に景観をいかすこと。どの人も笑顔になる地域活動のバランス。	30代	男性
車さえあれば20分圏内に郵便局、商店、歯医者、コンビニ、森林組合があり、レジャーをしたければ相大池や矢田川がある。健康でぜいたくをしなければ暮らしやすいと思っている。しかし美しい山や田畑の風景や川が保てないことや、将来の人口を想像するとさらに大変な景観になることが予想でき、何よりも人が増えてほしい。移住希望者を受け入れる環境づくりやPRが課題だと思う。	40代	女性
高齢者の免許返納問題もあり、移住手段が心配である。 人口減少対策。 学校統廃合問題。 雇用の確保問題。	60代	男性
少子高齢化に伴い地域のことだけではなく、家族や子どもの将来のことや家屋などの建物や田畑、山林などの維持が大変負担に思っている。 射添に結婚で移り住んで30年になるが、楽しくすごせ地域の人にも助けてもらい射添が大好きになった。自分が元気な限りここに住み続けたい。子どもたちには大切なふるさとを思って帰って来てほしいと思う反面、不安もあり複雑である。最近遠方の両親の世話をしたいが、時間と体力、経済的負担を考えて十分には行えない。もし将来、子どもたちが遠方に住み同じ思いをさせるのではと心配になる。 相岡は魅力のある地であるため多くの人に来てもらいたい。おいしい米や山菜など昔から続いている作物を守り続けてほしい。近頃、山菜の収穫量が減少しているため今後、地域を上げて山焼きを行ってほしい。他地域や都会からも山菜採りに来るため貴重な土地を守りたい。 グランドゴルフをはじめ他のスポーツで魅力のある取り組みをしてほしい。 射添の各地区が良いところをのばして盛り上げてほしい。 射添地区コミュニティだより創刊号を読んだが、ここに住む人や遠くからふるさとを思っている人にも共有してもらえ良いものだと思う。これからも楽しみにしている。	60代	女性
子どもや若者が少なく、地区内の楽しみの会が少ないためさびしい。老人会の1ヶ月に1度の会合を楽しみにしている。	70代	-

内容	年齢	性別
住民が少なく活気が徐々に失われているような気がする。高齢になってもいきいきと暮らせるように行政が先導するような産業をおこすことができれば良いと思う。名案は浮かばないが、ただ年を取るだけで本当に先がないように思う。	50代	-
射添地区の中心機能をどう強化するのかを考える。射添小学校の統合を見据えて新たな地域おこしの交流の拠点づくりをする。	60代	男性
「しなければならない」わけでもないのに「しなければならない」「せなあかん」と思っていたり、思わせたりすることが多いように感じる。その場の雰囲気や周囲を巻き込んでいる。周りのことを考えているようで自分たち中心である。若い世代はそう感じている。	40代	-
さらに子育て支援などを充実させないと少子化はとまらない。移住者にも魅力を感じることができればと思う。	30代	-
空き家が放置されていて今にも崩れそうである。道端にある家は大変危険なため（ガラス、廃材）対処してほしい。 イベントや公民館講座など参加してみたいとは思いますが、その時間に合わないため行く気がなくなってきた。	50代	-
射添地区を考えるメンバーに中学生、高校生などにも参加できるようにする。若い人たちの意見をさらに出してもらえるような会議にすれば良いと思う。今までの古い考えでは何も変わらないと思う。新しいアイデアや考え方で地域を元気にしてほしい。 高齢者の多い地域であるため、子どもたちに色々な知識を教える場が多くあれば良いと思う。例えば大工だった人は木材で物づくりの知識を教える。逆に子どもたちから高齢者にゲームを教われば物忘れ防止になる。 一度出てしまった子どもたちが再び戻ってくることはない。人口は減るばかりで増えることはない。空き家を利用して移住者を快く受け入れるしかない。一番良いのは子どもたちが自分の住んでいる地域を好きになり暮らしていけるようにすることである。そのためには子どもたちの働く場所が必要であるが、色々難しいと思う。	50代	-
東北で行われている芋煮会のような行事がこの射添地区でできれば、人々の絆（つながり）がより強まると思う。	60代	男性
雪のある生活のイメージが悪いため改善する。そして実質的にもより楽になるような事業や工夫をする。	30代	男性
免許を返納した高齢者が気軽に使える交通手段があれば良いと思う。	19～29代	女性
今日の現状を良くするのはありがたいが、未来を継ぐ若者や子どもがいなくなるの方が急務であり、1日も早くどうしていくべきかを射添地区の人々が真剣に考えて早く実行していかなければ未来の射添はないと思う。 この美しいふるさとを自分の子どもたちに魅力のある町だと思えるように、町に色々な面で援助や助成金などの体制づくりや働きかけに早く取り組んで実行してほしい。	60代	女性
若い人が住めるワンルームマンションがあれば良い。村岡、日高間のバス路線や町民バスの増加。町民タクシーの検討。	50代	-

内容	年齢	性別
まだ住み始めたばかりで、わからないことばかりだが、他地区から見ていた時はとても元気で人と人との距離がとても近い地区だと思っていた。災害や困りごとがあった時、隣の人の顔が見える関係がある方が安心できるため、とても大事なことだと思う。全体のつながりができるような機会は多い方が良いと思う。	40代	女性
歴史、文化を大事にする地域づくりを進めてほしい。	60代	男性
少子超高齢化になって何ができるかを考えた時に、今ある行事を続けることが精一杯で、むしろ難しくなっているのが現状である。 そのためのコミュニティ事業であると思う。みんなが気軽に参加できる小さなものから始めれば良いと思う。大きいことをやると初めは良いかもしれないが、継続していくのは苦しくなってくると思う。マンネリ化も気になる。それが伝統だと言われれば仕方がない。 今のままではダメだと人々が危機感を持つことが重要だと思う。自分の生活を最優先するため地域での事業は後回しになるというのが現状である。その意識を変えていくためにも最初は負担の少ないものにすべきである。気軽に行えるということが重要だと思う。地域的には素晴らしいところであることは間違いないため、気持ちの持ちようで変わっていけると思う。	60代	-
生活柄、仕事柄、地域への参加や参画は全くしておらず、参加意欲も興味もわからない。田舎は何かと周囲とのコミュニケーションを図ろうとするが、そう思わない人にとっては迷惑である。このような場所で都会的な生活を望んでいるわけではないが、もう少しドライな人間関係や地域関係性を構築してほしい。	40代	-
自分たちの生活を中心にする考え方から抜け出してほしい。城崎では「町全体が一軒の家、道路は廊下、外湯は家の風呂、各旅館やホテルは自分の部屋、一軒の家だからみんな仲良く大切に守るんだ」という言葉がある。 射添地区も小さな心にこだわらず、射添地区全体が自分の地区、各地区の旧所、名所、伝わっている行事、見所やがんばっている所などもう一度掘り起こし、射添地区案内パンフをつくったり、射添地区全体で良い所をのびし宣伝し発展していくような地域コミュニティづくりにしてほしい。会議と報告のみのコミュニティづくりにならないように生きて動くものにしてほしい。	80歳以上	女性
地区の昔からの古い慣習の見直し。10年、20年後を見据えて若者の意見を素直に聞き変えていくことを考えないと、少数の若者世帯の負担が多くなるばかりである。もっと柔軟に考えてほしい。	50代	女性
地理的にも気候的にも本当に生活しにくい地域である。閉鎖的な考えを持つ人が多いように思う。高齢者の車の運転の是非も問われているが、一部の地域で行っている色々な対策を早く実行してほしいと思う。デマンド交通など。	70代	女性
行政がリーダーシップを取っている事業は、知る限りあまり成功事例がないと思う。それよりも人口を増やすことを考えた方が良いと思う。	60代	男性

内容	年齢	性別
地域の活動、事業に対しては行っているが、参加人員が少ないと感じている。少子高齢化の問題はあると思うが、もう少し参加を呼び掛けて活動、事業などを持続していきたい。(若者の参加が少ないように思う。)	70代	男性
老人会などの入会や参加は個人の自由にしてほしい。	60代	女性
過疎化が進んで子どもたちが安心して暮らしていけなくなっている。	50代	-
高齢者のためになるようなことはなくてよい。	80歳以上	男性
アンケートが射添地区になじまない問が多く、回答しづらい。せっかくの取り組みが拙速して機能しない組織にならないことである。区毎に事情が異なるため1つにまとめるのではなく、射添コミュニティは各区の取り組みを支援する組織であってほしい。くれぐれも行政指導型にならないように願っている。	70代	男性
高齢者になると行事の大切さに理解しつつも気持ちと体力がついていかない。限界集落であるのでやむを得ない。	80歳以上	男性
特に感じるのは極端な少子高齢化である。高齢化は仕方ないが少子化対策は大変重要なことであり、このことなくしては射添地区は消滅するのではと感じている。射添地区の今後を考えるのであれば、すべての活動は少子化防止に向けたものにすべきだと思う。	60代	-
地域に若者がだんだんと少なくなってきて、子どもがいなくなり高齢者が増えてきている。	50代	-
暮らしに関しては不満がない。地域内の活動などへの協力はあるが、なかなか下の年代に引き継ぎができない。活動を続けていくむずかしさを感じている。	60代	女性
射添地区内に4校あった小学校が1校に統合されて早や半世紀、当時よりシミュレーションされていた事態が今、目に見えて進んでいる。全国的な現象とは言え、射添地区は特に厳しい。 子どもを大学に送り、都会で就職する。親だけが地元に残り年を取り高齢化世帯だけとなる。当たり前のことである。今さら対策しても手遅れだと思う。 今、射添を1つのエリアとしてコミュニティを考えていこうとしているが、小さい区ほどむずかしいことを知ってほしい。公平、平等の原則を考えてほしい。これから何に向かって行動するのか、経済効果のある地域事業を模索するのか、高齢者の暮らしを守る事業を模索するのか。それぞれ各区に見合った取り組みを立案実施すれば良いと思う。政治と金の力が必要になるが、国会で人口急減地域対策法案が審議されており期待している。行動を起こしてくれることを期待している。	60代	男性
それぞれの集落のこと、人のことをもう少しじっくり知る機会があれば良いと思う。以前、山田集落の文化祭に行ったが、とても興味深く楽しかった。大きな運動会や盆踊り大会だけでなく、各集落の個性が知れるような小さなツアーがあると素敵だと思う。	40代	女性
伝統、文化を守ることも必要かもしれないが、今、現在暮らしている人たちの利便性や環境づくりを優先させるべきである。	30代	男性

内容	年齢	性別
人口減にもかかわらず従来通りの行事やイベントが続いていることに疑問を感じている。昔からの伝統を形として維持していくことは困難であるため、記録として保存することを検討すべきである。行事、イベントの本来の目的を再検討し、維持の必要性を検討すべき。 行事、イベントは特別な日で、日常生活を大事にしたい。特別な日が多すぎる。地域コミュニティでの活動は誰かに何かをしてあげるのではなく、誰かと一緒に楽しめるものでないと続かない。人口減は確実なものであり、この地域だけが活性化することはあり得ない。穏やかに消滅していきたい。悪あがきとしての地域コミュニティの活動に期待している。	60代	男性
仕事でなかなか地域の行事に参加できないため、地域の人々の目や口が大変気になっている。もう少し働いている人の気持ちになってほしい。	50代	-
もう少しイオンのような大型商業施設が近くにあれば良いと思う。友人と遊べる場所がほしい。	13～15歳	-
高齢のひとり暮らしであり、買い物や病院など免許を返納しているため、不便なことや健康的にも不安がある。	80歳以上	男性
行事を続けていくことのむずかしさを感じているが、やり続けることの大切さも感じている。区の中では高齢化が進んでいる。まだ自分たちには実感が無いが、あと10年、20年たったことを想像すると心配である。	50代	-
夫が亡くなった後も近所の人や友人、知人に親切にもらった。昔はほとんどの家が両親と同居し、子どもが3～5人いる大家族であった。しかし今はほとんどが核家族である。元気でみんなが笑顔で暮らせることが第一だと思う。	80歳以上	女性
それぞれが自分の住んでいる集落を活気づけることが、やがて射添地区全体が活気づくと思う。地域での活動、事業は無理やり頭から決めつけても長続きせず無意味だと思う。	70代	-
足腰が悪くなったため隣近所へ行くにも億劫になった。射添地区の発展を願っている。	80歳以上	-
色々な講座に参加すると元気で積極的に生きる人たちに会える。時間と体力が許す限り参加したい。	60代	女性
このアンケートを現在、大学や専門学校生に通っている若者に答えてほしいと思う。若者の田舎に対する思いや考えを聞く必要がある。	60代	女性
高齢化社会になり、区の役員はの中で何かをしなければならいと一生懸命になっている。感謝しながら協力しなければならいと常に思っている。 年金生活世帯が多くなってきた。葬儀関係も簡素化されてきたが、まだ時代にそった方法に変えていかなければならない点もあると思う。 ボランティアで様々な場所で草刈りなどをしていてくれる人を多く見かける。みんながそのような精神に近づけたらと思う。	70代	-
これから先、色々な活動に参加するための移動手段が問題になると思う。病院へ行くにも手段がなく困ると思う。	70代	女性

内容	年齢	性別
射添地区にある唯一の道の駅が心配である。交通量が少ないという決定的な悪条件の中で少しでも道の駅を利用して盛り立てることが必要だと思う。地域住民がそのためにさらに利用するように心がけ、色々な意見を出し合って盛り立てる工夫をすることが大切だと思う。	70代	男性
留守になっている家や人の迷惑を考えない家の樹木。1年1年大きく成長するため何とかしてほしい。 家（村）の近くや中にある手つかずの畑の草が伸び放題で困っている。 どの家でも車が入れる広い生活道路が必要である。 懐中電灯を持たずに歩けるように、街灯の数や点検を行ってほしい。	70代	女性
現在はまだ運転も自分ででき、車で動けば用事ができるが、年を取ると運転にも自信がなくなり移動手段をどうするのか不安である。どうしても高齢になると同年代の人がいないため、高齢者の事業の参加が少ない。世の中が忙しいため高齢者がゆっくりと過ごす時間が取りにくい。	60代	女性
住民の少子高齢化により住民間の意思疎通がだんだんと保てなくなっている。これから先のことが案ぜられる。世代間の考えの違いも影響しているかもしれないが、相手のことを思いやり地域の中で何ができるのか、みんな考えていくことが必要だと思う。	70代	-
現在77歳になるが、この地で幸せに暮らせる老後になっている。このように落ち着いて生活できていることに関して村落や村の人に感謝している。	70代	女性
子どもに何をさせるにも親の送迎が必要なため、あきらめさせることが多い。（習い事、子ども同士で遊ぶこと、高校も送迎が必要） 家の前まで車が入らないところは道路を整備してほしい。（特に救急車両が入らないのは問題） 空き家、空き地を管理してほしい。危険となる前のものも何とかしてほしい。（草木が伸び放題） 車がないと病院や買い物へ行けない。そのため免許返納をためらい具合が悪くても我慢して症状を悪化させてしまい生活の質が落ちる。本数の少ない大きなバスより本数の多い小さなバスにしてほしい。 診療所、JA、保育園、学校など人が減ってなくなり、なくなっているため人が減るという悪循環を断ち切る方法を考えなくてはならない。 災害の避難場所や経路に不安を感じる。自宅にいるほうが安全だと思うこともある。	40代	女性
高齢になり何もできないが住み慣れた村にいたい。	80歳以上	女性
射添を考える会は子供会、青壮年会、一般、老人会それぞれの立場で特に区長会が中心になって行政を取り入れながら、今の射添地区で何が必要なのかを話し合い、若者がこの地域で残れるまちづくりを考えて活動していなくては、空き家が増える状況からは脱却できないと思う。（私たちの射添地区を取り戻そう）	80歳以上	男性
町内バス（マイクロバス）の運行回数を今の倍ぐらいに増やしてほしい。病院へ行くのに回数が少ないため困っている人が多い。	80歳以上	-

内容	年齢	性別
留守にしている家の木が大きくなって邪魔になる場合は、枝などを勝手に切ったり処理できるようにしてほしい。畑などで使用したトタンや木柵の材料を放置せず、片付けてほしい。風で飛び危険である。	60代	女性
自然が豊かで自然の恵みを受けて暮らせるのが一番である。自然との共存もできれば良いが、自然がシカに荒らされ山菜がなくなってしまうのが現状である。畑も防除柵をしなければ何もつukれない。あまりにも頭数が増えすぎている。何とかしてほしい。	60代	男性
小規模集落にあって高齢者と60歳前後の人との交流機会が少なく、今後の地区活動に不安を感じる。毎年、区長会が行う球技大会（グラウンドゴルフ）に老人会主体ではなく、年齢を問わず若者にも参加を呼び掛けるべきだと思う。	70代	男性
ドライバーも高齢化しているが、町民バスは日に4回。しかも村岡～香住間は山田で乗り換えしなければならない。高齢者が通院するのも当日ではできない。買い物も同様である。町民バスの損益上のことはわかるが、増便を考えてほしい。 空き家が多く近所の家がまわりを草刈などをする人が多いのだが、冬季になると家のまわりの木が大きくなってしまい積雪が落下して危険である。 当地区は小人数で高齢化しているため冬季は外出しにくい、老人会の囲碁ボールなどは、ほぼ全員が参加するため安否が確認でき、とても良いことをしていると思う。	70代	女性
新たな事業・活動は、数年から10年後には責任も活動も持てなくなる。60代、70代の人を中心になってつくり始めても、継続維持が可能であるか、若者や女性が負担に感じないか検討が必要である。何事も新しく始めたりつくったりは勢いでできるが、中止や廃止は難しい。人口推移を考えて、現在の事業や活動（射添を考える会など）の廃止・見直しを前提に検討してほしい。	70代	-
子どもがほとんどいなくなり、高齢者世帯や大人だけの家族が増えてきた。元気なため生活が不便とは思っていないが、今のままでこの地での将来の生活を考えると不安になる。	50代	女性
地域に必要なと思うことは、高齢者が安心して暮らせること。高齢者が活躍でき働くこと。地域の資源（寺、収穫物など）をいかして収入になることを考えることである。高齢者が元気であれば地域も元気になるように思うため、集う場所や活躍する（働く）場所があれば良い。	50代	女性
ゴミ拾いなどの美化活動は、高齢者ではなく若い人がすべきだと思う。 最近の子どもたちは家でゲームばかりで外で遊ぶことが少なくなっているため、外でのイベントを増やしてほしい。	16～18歳	-
人が減ってきているのに、地域の行事などが多すぎる。	40代	男性
行政は上を見るだけでなく下を見て援助をしてほしい。上層だけ良くなり下層にはまわってこない。行政はそういうものであって直らない。	60代	男性
集落から少し離れた地域に住んでいるが、避難場所があまり安全ではないような気がする。	50代	女性

内容	年齢	性別
30 年前の元気で交流も活発な時代と違い、現在は高齢化や人口減でみんなやる気が失せてきているため、今の時代にあった交流事業や活動を考えていくべきである。 射添地区は南北に長く、限界集落も多くなっているためそういった地区に支援をしていくべきだ。代行サービス・送迎サービスなど。問8の設問は簡単なようで選択するのが難しい。	50 代	男性
山で自然薯栽培をして特産物にする。山で育てたほうが味が良いと思う。 住む地区の活動は知っているが、他地区は保護者間で話す程度しか知らない。そのため問8は住む地区を思い浮かべて記入したため、行っていない活動については評価できなかった。 また地区内でのつきあいは家族で分担しているためよくわかっていないことも多々あり、思った以上に自分が理解していないことがこのアンケートの記入で気づいた。 現状を知っているため求めても仕方がないと思う一方で、他地区の取り組みの工夫を知ればより良い暮らしをみんなで考え取り組めるのではないかと思う。	60 代	男性
住む地区の活動は知っているが、他地区は保護者間で話す程度しか知らない。そのため問8は住む地区を思い浮かべて記入したため、行っていない活動については評価できなかった。 また地区内でのつきあいは家族で分担しているためよくわかっていないことも多々あり、思った以上に自分が理解していないことがこのアンケートの記入で気づいた。 現状を知っているため求めても仕方がないと思う一方で、他地区の取り組みの工夫を知ればより良い暮らしをみんなで考え取り組めるのではないかと思う。	40 代	-
自然は豊かだが生活環境は低下していき不便である。(バスがない日の買い物など) 老後が不安である。	-	-
昔と比べて川に元気がない。魚も少ないし、川で遊ぶような人もいない。町や村の中を流れる川は地域の暮らしにおいても重要で無視できない。	60 代	男性
新地域コミュニティ委員会が設立されたとして、町の行政や社協が進めようとしていることとの区別がはっきりしない。町に提言しようとしているのか、補助金をもらって何らかの事業主体になろうとしているのかわからない。無線放送では企画課がアンケートを実施しているように聞こえる。 防災関係では防災無線が整備され、放送が確実に聞き取れるようになった。一方避難所は公共の場所をただ指定しただけで訓練のための集合場所ではなく、地元住民が全員避難すると室内には入れなくなる。優先順位があるかもしれないが、射添体育館も小学校の体育館も橋を渡るか川沿いの道を通らなければならないため、危険だと思う。 健康づくりや生活支援活動、移動支援などは多様な形で必要になると思うが、人も費用も必要になる。 子どもの見守り活動もバス停から自宅までのため、歩く距離が短く、見守りと言えるかわからない。	-	男性
若い人が減り、高齢者ばかりになって今まで実施していた事業や行事の在り方など、考えなければならないことが多くなっている。今までのことは一度リセットして、現在に照らして見直す必要があると思う。世話をする人も減っているため、なくすべき行事は思い切ってなくし、残った人でできる行事をがんばるしかないと思う。 地区の能力に応じた地区運営をすれば良いと思う。負担になるのを嫌う人が多いと思う。具体的にどうすれば良いのかわからないが、変えていかなければならないと思う。	60 代	男性

内容	年齢	性別
高齢者も多くなり、子どもも少ない中で色々な問題が出てきている。 70歳以上で90歳以上の親の介護／老老介護（夫婦）／70歳以上の親に50歳の子どもが引きこもり／ひとり暮らしの認知症、障害者、ゴミ屋敷、食事の用意ができないなど／働いていない（60歳以下）働けない／田畑を耕したくても機械の入りにくい場所は断られてしまう／地区の奉仕作業（クリーン作戦、道路愛護、やぐらたて、草取り、お宮のそうじ、祭りの餅つき、みこし）／イノシシ、シカ、クマの出没／買い物など／車を運転できるうちは良いがバスの利便性が悪いので移動手段に対する不安 色々な不安や問題はあるが、この地区でみんなと一緒に一日でも長く元気な間はがんばって過ごしていこうという人たちが過ごしている。	60代	女性
何に関しても選択肢が少ない。	60代	男性
地域内での楽しみが以前は多くあったが、人口減少と共に少なくなった。また維持の難しさを実感しているが、さらに年齢関係なく交流することがあれば良いと思う。	60代	女性
年々、人がいなくなっているため、そう遠くない未来には村が無くなってしまおうと思うが仕方がないと思う。農業に魅力を感じられないからである。会社にしなければ儲からない。土地はあるため何か事業を立ち上げてほしい。これから先、年齢や費用のことで土地を維持していくことが不安である。	40代	-
山田区は村岡区でも高齢化率トップクラスの過疎の村となってしまったような気がする。幹線道路まで遠く、ほぼ行き止まりの村だと思っている。静かで住みやすいところであるとは思いますが、人数がどんどん減っていくと思う。都会で生活した人が定年して戻ってくるとは考えられず、今日まで定期的に続けていた道路愛護などの共同作業には支障も出始めていると感じる。 農地も家のまわりの家庭菜園用の畑でさえ荒れようとしている。矢田川沿いの田んぼは人や農地プランによってお互い耕作していない人も応援しあって、用水路の手入れや電気柵設置の共同作業を行っている。いつか担い手が現れれば応援したいし、耕作をこれからも続けてほしいと思う。	70代	男性
町民運動会は9月最初の日曜日は稲刈りと重なって参加できない。	60代	女性
暮らしの中で若い人が少なく、子どもがいないのが残念である。射添小学校でも山村留学などで小学校を増やせば少しでも活気につながると思う。事業活動については伝統行事を守るように今までしてきたが今後どうなるのか不安である。	60代	男性
行事が多すぎる。より少なくすることが大切である。	70代	男性

Ⅳ 各設問の「その他」の回答

※（ ）内の数字は、同じ回答の件数

■問3 職業。

福祉サービス／宗教／専務及び主婦／家業に従事／特別養護老人ホーム勤務／工員／兼業／
シルバー／在宅専門職／畜産業（2）／工場

■問4 日常の主な交通手段は何ですか。

自宅／シルバーカー

■問5 ご近所とのつきあいについて、悩みなどがありますか。

高齢者が多いため人手が少ない／親戚が多い／早朝から洗濯機の音がうるさい／高齢のため
村の人たちに助けてもらう／子どもの遊び場がない／集落がひっそりとしている／冬期の除雪、
屋根の雪おろし／隣近所、親戚ともに仲良くしている／いつまで元気でいられるか／ネコが敷
地に入る。野良ネコにえさを与えている／少子高齢化が進んでいる／空き家が邪魔になる／空
き家の崩壊に困る（2）／庭木の手入れができていない／悪口をよく耳にする（2）／サル被
害／歩行が困難なためつらい／行事、イベントを整理すべき／体調が悪いため／地区内に問題
のある家がある／まわりの人が高齢化していく／人権、プライバシーをお互いに大事にしまし
よう／消防活動が多い／村中から離れているため、それほど近所のつきあいはない／近所に
変わった人がいてつきあい方に悩む／近所の人と話すことが何よりのはげみ／ひとりだけ悪い人
がいる

■問6 あなたは地域活動に関心がありますか。また、その理由は何ですか。

<①「関心があり、積極的に参加している」と答えた人の理由>

伝統行事を絶やしたくない／時間があれば参加する／高齢者のため過去の相談がある／伝統
を守っていく必要がある／動ける時は参加したい／少しでも地域を良くしたい／頭数で参加し
ている

<②「関心はあるが、積極的に参加していない」と答えた人の理由>

高齢になれば気力や体力がなくなってくる／事業があれば出ている／できるだけ参加してい
る／極力参加はしている／高齢、病気／体が不自由なため／高齢／時間があれば参加する／勉
学が忙しい

<③「関心はないが、付き合いで参加している」と答えた人の理由>

頼まれれば出席している／役に立つものすべて／親が言うから／仕方がないことだから

＜④「関心もないし、関りたいとも思わない」と答えた人の理由＞

地域活動にがんばっている／高齢者／高齢になり何もできない

■問 7 日常生活について、不安に感じていること、困っていることはありますか。

高齢者が多く、区の行事が行いにくい／夜、ひとりが不安／体力がないため何もできないこと／獣害で作物がつくりづらい（４）／高齢者の交通事故。運転免許返納した場合の交通手段。村岡にタクシーを置いてみてはどうか／仕事も家事も忙しく、自分がゆっくりする時間がない／近くの村岡病院に眼科の出張診療を週一回か、月一回でもしてほしい／子どもが遊ぶ場所（公園など）がなく、友達と気軽に遊べない／空き家の解体費用／ゴミを地区内で燃やしたり、車の駐車などマナーが悪すぎる／高齢者の体の不自由な人は楽しみがない／近所に付き合いづらい人がいる／同年代がいないため、地区の負担が自分ひとりになりそうなこと／子どものやりたい習い事が近くにない／長須地区には男性グループがない／独身のため冬の除雪や老後の生活が不安である／新しい人やものの考えを嫌う風潮／子や孫が遠方に居住していること／今は元気で不便を感じていないが、老後の生活は心配である／将来の人口減と集落／同じ年頃の話し相手がない／他人の目が気になる／多忙。

■問 15 地域、集落内であなたが誇りに思っているものは何ですか。

紙芝居／秋には2mの草、荒れた田んぼ／寝たきりの人がいない／仕方ないため／老人会が元気

■問 16 あなたは、地区公民館をどのような目的で利用しますか。

老人会、会話、囲碁ボール／行事（２）／イベント／仏事（食事用）／体育館使用時、イベント／老人会（４）／地区の祭り／いきいきサロン、お楽しみ会（２）／本の貸し出し／避難所／趣味の講座で利用／グループで食事、話し合い／お茶会／葬儀などの関係で利用／区の行事／利用する用事がない／練習場として利用／ポケストップ／空カンでの利用／ソフトバレーの会議

射添地区 まちづくりアンケート

～ みなさんの声をお聞かせください ～

射添地区では、区長会や各種団体の住民有志による「射添地区新しい地域コミュニティ設立準備委員会」を設置し、地域資源を有効に活用し、これからも射添地区に住み続けていくための取り組みについての話し合いを進めています。

そこで、射添地区で暮らす皆さんから、日頃思っていることやご意見をお聞きし、これからみんなで地域を元気にしていく取り組みを検討するため、中学生以上全員を対象としたアンケートを行うこととしました。

「めんどくさーい」なんて言わずに、ありのままをお聞かせください。

問 1 あなたの年齢と性別について、あてはまるものに○をつけてください。

(年齢)	① 13 - 15 歳	② 16 - 18 歳	③ 19 - 29 歳
	④ 30 - 39 歳	⑤ 40 - 49 歳	⑥ 50 - 59 歳
	⑦ 60 - 69 歳	⑧ 70 - 79 歳	⑨ 80 歳 以上
(性別)	男性	女性	

問 2 あなたのお住いの地区をお書きください。

() 区)

問 3 あなたの仕事にあてはまるものすべてに○をつけてください。

① 農業	② 林業	③ 漁業
④ 自営業	⑤ 会社員	⑥ 公務員、団体職員
⑦ パート、アルバイト	⑧ 専業主婦 (夫)	⑨ 中学生
⑩ 高校生	⑪ 大学生、専門学校生	⑫ 無職
⑬ その他 ()		

問 4 あなたの日常の主な交通手段は何ですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

① 自家用車	② 家族や親せき、知り合いの車	③ バス	④ 徒歩
⑤ タクシー	⑥ バイク (原付)	⑦ 自転車	⑧ その他 ()

問 5 ご近所とのつきあいについて、悩みなどはありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

① 地域、集落でのつきあいについて、悩みなどはありますか。	② 隣近所との付き合いがわずらわしい
③ 集落内に話し相手や仲間が欲しいと思うことがある	④ 悩みや要望、困りごとはない
⑤ その他 ()	

問 6 あなたは地域活動※に関心がありますか。選択肢の①～④の中から1つ選んで○をつけてください。また、その理由としてあてはまるものすべてに○をつけてください。

※地域活動：地域、集落の活動や共同作業、伝統行事や祭り、行事、イベントなど

＜選択肢＞

① 関心があり、積極的に参加している

ア	やりがいがある
イ	何かに役立てる
ウ	時間的に余裕がある
エ	その他 ()

＜理由＞

② 関心はあるが、積極的に参加していない

ア	仕事などで時間的に余裕がない
イ	お金がかかりそう
ウ	人間関係が面倒そう
エ	知り合いが少ない
オ	体力がない
カ	自分が役にたつのが不安
キ	その他 ()

＜選択肢＞

③ 関心はないが、付き合いで参加している

ア	時間があるからなんとなく
イ	周りの目が気になる
ウ	活動に関心はないが、地域の人の付き合いは大事にしたい
エ	人に頼まれた (すすめられた)
オ	その他 ()

＜理由＞

④ 関心もないし、関わりたいとも思わない

ア	興味が無い
イ	時間的に余裕がない
ウ	人間関係が不安
エ	自由な意見が言えない
オ	体力がない
カ	地域活動に意義を感じない
キ	その他 ()

活動、事業項目 評価項目	満足度				重要度				
	満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満	重要	やや重要	どちらともいえない	あまり重要ではない
⑩ 地域の伝統文化、芸能の継承について									
⑪ 地域の歴史に関する保全活動について									
⑫ サークル活動などの生涯学習事業について									
⑬ 健康体操などの健康づくり活動について									
⑭ 100円喫茶など、高齢者の生きがいづくりについて									
⑮ 配食サービスなどの生活支援活動について									
⑯ 買い物、通院などの移動支援活動について									
⑰ 子ども会などの子ども対象事業について									
⑱ 登下校の見守りなどの子どもの安全を支える活動について									
⑲ 子育てなどの相談ができる場や人について									
⑳ 保護者同士が交流できる場について									
㉑ 日常的な不安や悩みが相談できる場や人について									
㉒ 地域内のスポーツ活動について									
㉓ 運動会などの地域内のスポーツ大会について									
㉔ 農地、山林などの維持管理について									
㉕ 散策、収穫体験など、地域の魅力を体験する活動について									

5

活動、事業項目 評価項目	満足度			重要度		
	満足	やや満足	どちらともいえない	不満	やや重要	どちらともいえない
㉖ 特産品の開発など、地域の産物を販売する活動について						
㉗ 状況把握など、空き家の管理活動について						
㉘ 住民との交流など、移住希望者の受け入れについて						
㉙ 地域広報紙の作成など、地域内での情報共有について						
㉚ インターネットを活用した地域出身者等への広報について						
問 9 あなたは、地域、集落の運営に女性や若者の声をもっと反映されるべきだと思いますか。						
① 思う	② 思わない	③ わからない				
問 10 あなたは、他の地域からの移住者を受け入れたいと思いますか。						
① 思う	② 思わない	③ わからない				
問 11 あなたは、他の地域との交流を行ってみたいと思いますか。						
① 思う	② 思わない	③ わからない				
問 12 あなたは、今後もこの地域、集落に住み続けたいと思いますか。						
① 思う	② 思わない	③ わからない				
問 13 あなたは、自分の子どもにこの地域、集落に住み続けて欲しいと思いますか。 子どもがいなくても「もし子どもがいたら」と考えてお答えください。						
① 思う	② 思わない	③ わからない				

6

問14 あなたは、この地域、集落に愛着がありますか。

ある ② ない ③ わからない

問 15 地域、集落内であなたが誇りに思っているものは何ですか。
あてはまるものすべてに○をつけてください。

- ① 地域内の景観、自然環境
- ② 地域内の名所、旧跡
- ③ 地域内の特産物（農産物、加工品等）
- ④ 地域内の産業
- ⑤ 地域内の行事など（祭り、イベント等）
- ⑥ 地域出身の著名人
- ⑦ 地域内に暮らす人々
- ⑧ 地域内の助け合いなどの社会関係
- ⑨ 地域内に誇りと思うものはない
- ⑩ その他（

問 16 あなたは、地区公民館をどのような目的で利用しますか。
あてはまるもの1つに○をつけてください。

① 会議等で利用
② 公民館講座で利用
③ 利用しない
④ その他 ()

問 17 あなたは、地区公民館に実施して欲しい講座や活動はありますか。
ある場合は、具体的な内容をお書きください。

講座名、活動名	具体的な内容

問 17 あなたが抱く、射添地区の「イメージ」をわかりやすく表現すると、どのようなものになりますか？イメージ例を参考に、わかりやすく表現してください。

【イメーシ例】せせらぎと安らぎの里
人がつながらる笑顔の里

【あなたが考える射添地区のイメージ】

(自由記入)

地域での暮らしや地域の活動、事業などについて、感じていることやご意見、ご提案等をご自由にお書きください。

アンケートは以上です。お忙しい中、アンケートにご協力いただきありがとうございます。

アンケートの集計、分析結果は、後日皆さまにお知らせします。

射添地区まちづくりアンケート

調査結果報告書

令和元年 9 月

発行：射添地区新しい地域コミュニティ設立準備委員会